



STANDARD

TWIN BANDER C560

ツインバンドFMトランシーバー

取扱説明書

- お買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
ます。
- お使いになるまえに、この取扱説明書をよくお読みのう
え、この取扱説明書は大切に保管してください。
- 本機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許
が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用
できません。
- 本機は、国内仕様です。国外では使用できません。

日本マランツ株式会社

3ページより

はじめに

7ページより

使いかたの基本を知ろう

17ページより

もっと自由にあつかうために

25ページより

メモリー機能を使うには

31ページより

スキャン機能を使うには

41ページより

レピータを使うには

45ページより

こんな使いかたもできます

51ページより

グループで使うには

67ページより

ご参考に

本書の読みかた

本機は、VHF帯とUHF帯のツインバンドトランシーバーですが、本書は、UHF 帯を主体に説明しています。

本書では、次の記号を使っています。



注意すること、守っていただきたいことを示します。



覚えていと便利なこと、またはアドバイスを示します。



参照するページを示します。



セットモード機能を表わします。
この機能を使うと、本機をより使いやすい状態にセッティングできます。



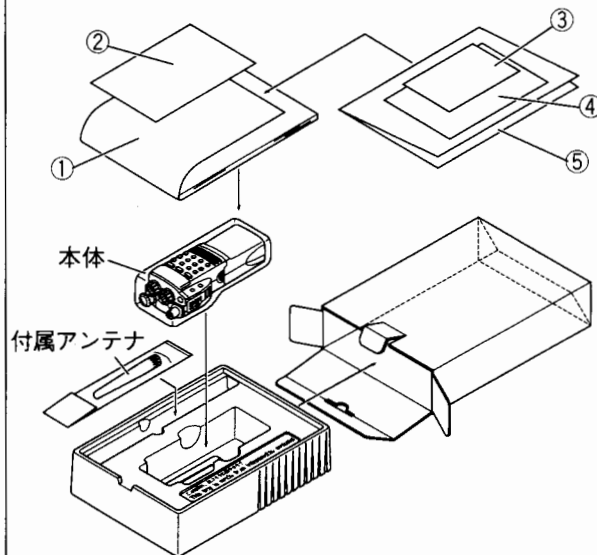
ファンクションキーを押しながらの操作を表わします。



PTTスイッチを押しながらの操作を表わします。

梱包品をご確認ください。

また、保証書にはお買い上げになった、販売店、日付が記入されていることをご確認ください。



①取扱説明書

②保証書

③全国営業所一覧

④愛用者カード

⑤ブロック図

もくじ

本書の読みかた	表紙裏
梱包品をご確認ください	表紙裏

はじめに	3
正しくお使いいただくために	4
アンテナを取り付けるには	5
電池を入れるには	6

使いかたの基本をしろう	7
電源を入れるには	8
音量を調整するには	8
スケルチを調整するには	9
メインバンド(周波数帯)を選択するには	9
VFO状態にするには	10
受信するには	10
送信するには	11
設定を最初の状態に戻すには(VFOリセット)	12
すべての状態を最初の状態に戻すには(オールリセット)	12
各部の名称と動作	13

もっと自由にあつかうために	17
周波数ステップを変えるには	18
周波数を100kHz/1MHzステップで変えるには	18
コール周波数(呼出周波数)を使うには	19
コール周波数を変えるには	19
コール周波数を一時的に変えるには(コールシフト)	20
コール周波数に各種設定を書き込むには	20
間違っ操作するのを防ぐには(キーロック)	21
キーロック中でもセレクターを使えるようにするには	21
スケルチをコントロールするには	22
送信出力を変えるには	22
サブバンドを消すには	23
バンドを切り替えるには	23
セットモードの機能を簡単に切り替えるには(マイキー)	24
ディスプレイのランプを点灯させるには	24

メモリー機能を使うには	25
メモリー機能について	26
メモリーするには	26
メモリーを呼び出すには	27
メモリーを変更するには	27
メモリーを消すには	28
メモリーモードの周波数を一時的に変えるには (メモリーシフト)	28
メモリー周波数に各種設定を書き込むには	29
メモリーを変更できないようにするには(メモリープロテクト)	29
メモリーユニットの取り付け、取り外すには	30
メモリーユニットについて	30

スキャン機能を使うには	31
スキャン機能について	32
1MHz内でスキャンするには(1MHzスキャン)	33
バンドの全域をスキャンするには(オールスキャン)	33
指定した範囲をスキャンするには(プログラムスキャン)	34
メモリー周波数をスキャンするには(メモリースキャン)	34
指定したメモリー周波数をスキャンするには (メモリースキャンメモリー)	35
メモリー周波数をブロックごとにスキャンするには (ブロックメモリースキャン)	36
指定したメモリー周波数をブロック内でスキャンするには (ブロックメモリースキャンメモリー)	37
トーン周波数をスキャンするには(トーンスケルチスキャン)	37
デュアルワッチを行うには	38
デュアルワッチをメモリアドレスM00と VFO周波数で行うには	38
デュアルワッチをメモリアドレスM00以外と VFO周波数で行うには	39
デュアルワッチをコール周波数とVFO周波数で行うには	39
デュアルワッチをメモリースキャン周波数と VFO周波数で行うには	40
デュアルワッチを行う時間を変えるには	40

レピータを使うには	41
レピータ運用について	42
レピータを使うには(オートレピータモード)	42
手動でレピータモードを設定するには	43
レピータ運用時に送信と受信の周波数を逆にするには (リバース)	43
レピータ運用のオフセット周波数を変えるには	44
レピータ運用のトーン周波数を変えるには	44
こんな使いかたもできます	45
間違って送信しないためには(PTTロック)	46
キーボードから1kHzの桁を入力するには	46
自動的に電源を切るには(オートパワーオフ)	47
電池を長くもたせるには(バッテリーセーブ)	47
送信を自動的に止めるには(タイムアウトタイマー)	48
キー操作時のビープ音を鳴らさないようにするには	48
スケルチが開くときのポップスを小さくするには	49
サブバンドの受信音を消すには(サブバンドミュート)	49
外部スピーカーを切り替えるには	50
ビープ音について	50
グループで使うには	51
ページングとは	52
コードスケルチとは	52
自分の個別コードを設定するには	53
話したい相手のページング・コードスケルチの コードを設定するには	53
グループコードを設定するには	54
ページングで呼び出すには	54
ページングで待ち受けするには	55
ポケットベルのようにページングを使うには	55
ページングの送出時間を遅らせるには	56
ページング・ウェイクアップ待ち受け中での 呼び出し音の回数を変えるには	56
コードスケルチを使うには	57
ウェイクアップとは	57
自分のウェイクアップコードを設定するには	58

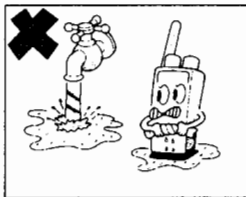
相手のウェイクアップコードを設定するには	58
ウェイクアップコードの桁を選択するには	59
ウェイクアップで待ち受けするには	59
ウェイクアップで呼び出すには	60
DTMFを使うには	61
PTTを押しながら、DTMF信号を送出するには	61
DTMFコードを書き込むには	62
DTMFメモリーを消去するには	62
メモリーしたDTMFコードを送出するには	63
メモリーしたDTMFコードを確認するには	63
DTMFコードの送出時間の間隔を変更するには	64
トーンスケルチ(CTN560)を使って	64
トーンエンコーダー・トーンスケルチを使うには	65
トーン信号の周波数を変えるには	65

ご参考に	67
故障とお考えになる前に	68
セットモード一覧	70
オプション(別売り品)の紹介	71
アフターサービスについて	71
定格	72
運用にあたって	73
開局申請の書きかた	74
送信機系統図	75
さくいん	76

はじめに

正しくお使いいただくために	4
アンテナを取り付けるには	5
電池を入れるには	6

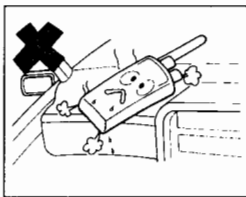
正しくお使いいただくために



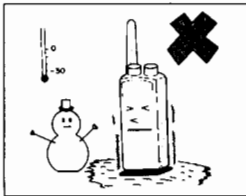
本機は、防滴構造(JIS防滴Ⅱ型)になっています。しかし、水や湿気の多い所では、ご使用にならないでください。また、水がかかった場合は、乾いた布などで、すぐに水分を拭き取ってください。



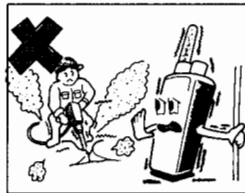
分解や改造は行わないでください。コアやトリマーは、最良の状態に調整されています。手を触れないでください。



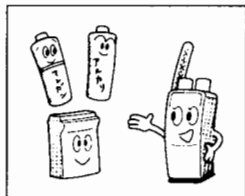
車のダッシュボードの上など、高温になる場所には放置しないでください。



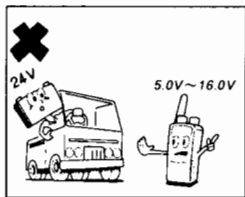
保冷庫の中など低温の場所では使用しないでください。



振動やホコリの多い所では使用しないでください。



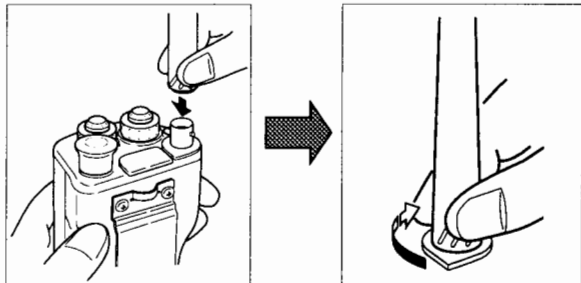
使える電池は単3形のマンガン電池、アルカリ電池、または当社純正の別売りニッケルバッテリーバックです。これ以外の電池は使わないでください。



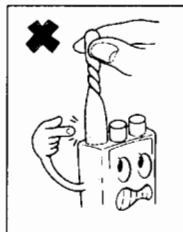
本機の動作保証電圧は5.0V～16.0Vです。外部電源を使用されるときは、この電圧の範囲でご使用ください。これ以外の電圧を加えると故障の原因になります。

アンテナを取り付けるには

アンテナの根元を持って、本機のアンテナ端子に差し込み、右に回します。



故障の原因となりますので、つぎのことは行わないでください。



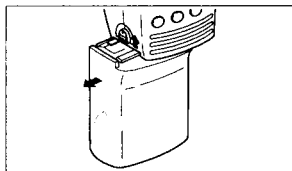
◆アンテナの上部を持って、取り付けを行わないでください。またアンテナを回し過ぎないでください。



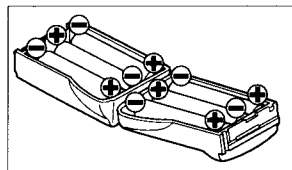
◆アンテナを握って、本機を持ち歩かないでください。

◆アンテナを取り付けずに、送信しないでください。

電池を入れるには

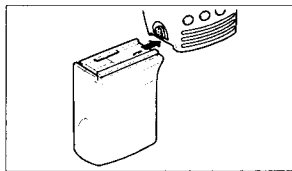


- 1 ロックボタンを上押しし、電池ケースを引き抜く



- 2 電池ケースを開ける

- 3 電池の極性を確かめ、電池を入れる



- 4 電池ケースの下側を合わせてから、電池ケースを閉める

- 5 電池ケースを本機に取り付ける

◆電池を入れるときは極性を合わせてください。



◆古い電池と新しい電池は混ぜて使わないでください。

◆使用済みの電池は、火の中などに投入しないでください。

◆電池マーク全体が点滅しているときは、保証電圧を越えた電圧が加わっています。本機の性能が損なわれている可能性があります。お買い上げになった販売店またはサービスセンターで点検を行うことをおすすめします。



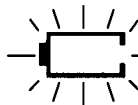
◆電池マークは次のことを示します。



電源電圧が10.5V～16Vです

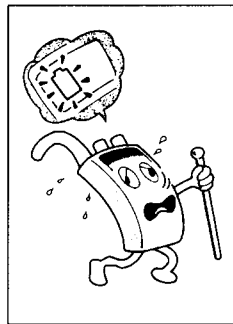


電源電圧が4V～10.5Vです



電源電圧が4V以下です

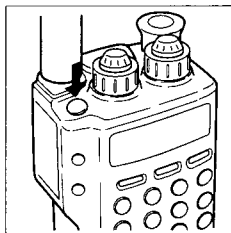
電池を交換してください。キーを押すとブー音が鳴ります。



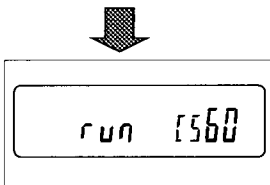
使いかたの基本を知ろう

電源を入れるには	8
音量を調整するには	8
スケルチを調整するには	9
メインバンド(周波数帯)を選択するには	9
VFO状態にするには	10
受信するには	10
送信するには	11
設定を最初の状態に戻すには(VFOリセット)	12
すべての状態を最初の状態に戻すには(オールリセット)	12
各部の名称と動作	13

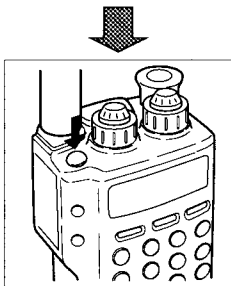
電源を入れるには



- 1** 本体上面の電源スイッチを0.5秒以上押す



- 2** ディスプレーに表示が出るのを確認する。また、ピポポという音が出るのを確かめる

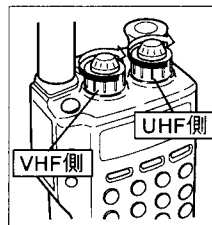


- 3** 電源を切るには、本体上面の電源スイッチを0.5秒以上押す

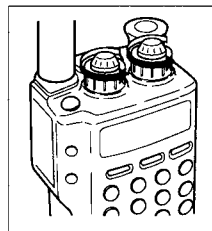


◆メモリーユニットが取り付けられていないと、手順2の表示はできません。すぐに周波数が表示されます。

音量を調整するには



- 1** 音量を大きくするには、VOL ツマミを時計方向に回す



- 2** 音量を小さくするには、VOL ツマミを反時計方向に回す

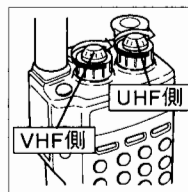


◆音量は、大きくならないようにしてください。特に、本体スピーカーを使った後に、ヘッドセットなどを使うときは音量を下げてください。

スケルチを調整するには

スケルチについて

- 信号を受けていないときは、「ザー」という音がでます。この音を消すのがスケルチです。



- 1 SQL ツマミをゆっくり時計方向に回す



- 2 「ザー」という音が消える位置で、ツマミをとめる



- ◆SQL ツマミを回し過ぎると、弱い信号を受けられないことがあります。

スケルチオフ：「ザー」という音が出ている状態をいいます。

スケルチオン：スケルチの操作により「ザー」という音が出ない状態をいいます。

- ◆キーの操作でスケルチオフにすることができます。(P22)

メインバンド(周波数帯)を

選択するには

- MAINが表示されているバンド(周波数帯)がメインバンドです。VHF帯とUHF帯でメインバンドの切り換えを行うことができます。周波数の変更、送信、ウェイクアップ機能は、メインバンドで行います。



- 1 [MONO MAIN] キーを押す

- 2 MAIN表示が切り替わったことを確かめる



- ◆MAINが表示されていないバンド(周波数帯)をサブバンドと呼びます。

VHF帯：144.00～145.995MHzの送信・受信ができます。

UHF帯：430.00～439.995MHzの送信・受信、1260.00～1299.99MHzの送信・受信ができます。

VFO状態にするには

- VFO (Variable Frequency Oscillator)状態とは、ロータリーチャンネルセクターやキーボードを使って周波数を変えることができる状態をいいます。工場出荷時やリセット直後には、VFO状態になります。



1 **[MONO MAIN]** キーを押し、メインバンドを選ぶ

2 表示部を確認する



3 Mが表示されているときは、**[ENT V/M]** キーを押す
(メモリーモードです。P26)



Cが表示されているときは、**[SFT CALL]** キーを押す
(コールモードです。P19)



周波数が増えているときは、**[* PSCL]** キーを押す
(スキャン中です。P32)



2つの周波数が交互に表示されるときは、
[* PSCL] キーを押す(デュアルワッチ中です。P38)

4 VFOに戻ったことを確かめる



- ◆メモリーモードまたはコールモードのとき、
[* PSCL] キーを押すと、表示されていた周波数でVFO状態に戻ります。

受信するには

- 話したい相手に周波数を合わせ、相手が送信すると受信できます。本機では、2つの方法で周波数を合わせることができます。

ロータリーチャンネルセクターを使う

(以下本書では、セクターと表記します。)

1 メインバンドを選び、VFO状態にする



2 時計方向に回すと周波数が増える

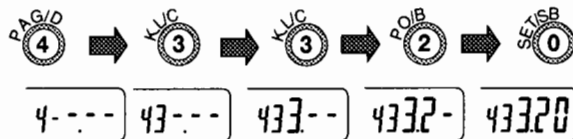


3 反時計方向に回すと周波数が減る

キーボードを使う

1 メインバンドを選び、VFO状態にする

2 100MHzの桁から入力する

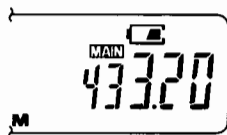


- ◆本機は、クイックエンコーダー方式を採用しています。セクターを速く回すと、周波数が大きく変化します。
- ◆キーボードを使っている入力の途中で、間違ったときは、**[* PSCL]** キーを押してください。

送信するには

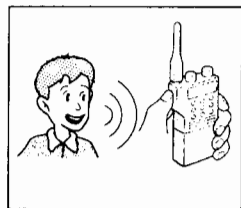
●周波数を合わせた相手と、送信する(PTT)を押す)ことで話しができます。

1 メインバンドを選び、VFO状態にする



2 話しをしたい相手に周波数を合わせる

3 送信しようとする周波数で、他の人が交信していないことを確かめる



4 PTTを押しながら、マイクに向かって話す

設定を最初の状態に戻すには (VFOリセット)

- メモリーの内容以外をお買い上げになった状態に戻すことができます。これをVFOリセットと呼びます。間違った設定をしてしまい、元の状態に戻せないときにご利用ください。



1 [PWR] キーを押し、電源を切る



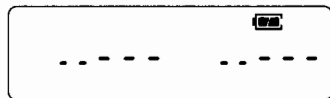
+



2 [SQLOFF] キーと[LAMP] キーを押す



3 手順2のまま、[PWR] キーを押す



- 4 キーから手を離すと、ディスプレイが初期状態になったことを確かめる

すべての状態を最初に戻すには (オールリセット)

- メモリーの内容もすべて消去し、お買い上げになった状態(初期状態)に戻すことができます。これをオールリセットと呼びます。



1 [PWR] キーを押し、電源を切る



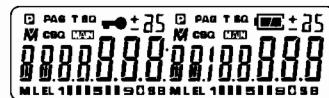
+



2 [FUNC] キーと[SQLOFF] キーを押す



3 手順2のまま、[PWR] キーを押す



- 4 キーから手を離すと、初期状態になったことを確かめる

使いかたの基本を知ろう

①アンテナ接続端子 (BNC)

②防水キャップ

マイク端子およびスピーカー端子を使わないときは、必ずこのキャップを閉めてください。

③MIC

外部マイクロホン端子

別売り品のマイクロホンを接続します。

④SPK

外部スピーカー端子

別売り品のスピーカーを接続します。

出力される音声をUHF帯のみ、VHF帯のみ、UHF帯とVHF帯というように切り替えができます。(P 50)

⑤ロータリーチャンネルセクター

このつまみを回し、周波数を変更します。(P 10)

各種の設定を行うときに、設定内容を変更します。

本書では、セクターと表記します。

⑥TX/BUSY (UHF)

UHF帯で送信を行うと、赤く点灯します。UHF帯で、SQLOFFキーまたは受信したときは、緑色に点灯します。

⑦SQL(UHF)

このつまみを回し、UHF帯のスケルチを調整します。(P 9)

⑧VOL(UHF)

このつまみを回し、UHF帯の音量を調整します。(P 8)

⑨TX/BUSY (VHF)

VHF帯で送信を行うと、赤く点灯します。VHF帯で、SQLOFFキーまたは受信したときは、緑色に点灯します。

⑩SQL (VHF)

このつまみを回し、VHF帯のスケルチを調整します。(P 9)

⑪VOL (VHF)

このつまみを回し、VHF帯の音量を調整します。(P 8)

⑫PWR

このキーを押すと電源が入ります。

⑬バッテリーロックボタン

⑭FUNC

このキーを押している間、ファンクションモードになり、各種の特別機能が設定できます。

⑮PTT

このスイッチを押している間、送信します。

⑯SQLOFF

このキーを押している間、メインバンドのスケルチがオフできます。

F：サブバンドのスケルチオフ

PT：サブバンドのスケルチオフ

⑰LAMP

このキーを押すとディスプレイのランプが約5秒間点灯します。

F：ディスプレイのランプが連続点灯

⑱キーボード

ENT V/M

VFO状態とメモリーモードの切り替えを行います。

F：メモリーの書き込み設定

F：メモリーモード時にメモリー消去

PT：DTMFメモリーの送出モードになります。

MONO MAIN

メインバンドの切り替えを行います。

F：モノバンド操作への切り替え

SFT CALL

コール周波数(呼び出し周波数)の呼び出しを行います。

F：シフトモードへの切り替え

1MY/A

数字の1入力を行います。

F：自分で登録したセットモード機能の切り替え

(工場出荷時は、デュアルワッチが登録されています。)

F：DTMFメモリー時にA入力

PT：DTMF信号の1送出

2 PO/B

数字の2入力を行います。

F：送信出力の切り替え

F：DTMFメモリー時にB入力

PT：DTMF信号の2送出

3 K.L/C

数字の3入力を行います。

F：キーロックのON/OFF切り替え

F：DTMFメモリー時にC入力

PT：DTMF信号の3送出

4 PAG/D

数字の4入力を行います。

F：ページングとコードスケルチの切り替え

F：DTMFメモリー時にD入力

PT：DTMF信号の4送出

5 CODE

数字の5入力を行います。

F：ページングコードの設定

PT：DTMF信号の5送出

6 DTM.M

数字の6入力を行います。

F：DTMFコードの設定

PT：DTMF信号の6送出

7 TSQ

数字の7入力を行います。

F：トーンエンコンダー・トーンスケルチの設定

PT：DTMF信号の7送出

8 RPT

数字の8入力を行います。

F：レピータ機能のON/OFF

PT：DTMF信号の8送出

9 REV

数字の9入力を行います。

F：レピータ運用時の送受信周波数の反転

PT：DTMF信号の9送出

0 SET/SB

数字の0入力を行います。

F：セットモード呼び出し

F：スキャン中のスキャンタイプ変更

PT：DTMF信号の0送出

* PS CL

各機能や動作のキャンセルを行います。

DTMFメモリー時に*(表示はE)入力

F：スキャンの開始および解除

PT：DTMF信号の*送出

使いかたの基本を知ろう

MS.M MS

メモリスキャンの開始を行います。

DTMFメモリー時に#(表示はF)入力

F：メモリスキャンメモリーの予約

PT：DTMF信号の#送出

①⑨DC IN

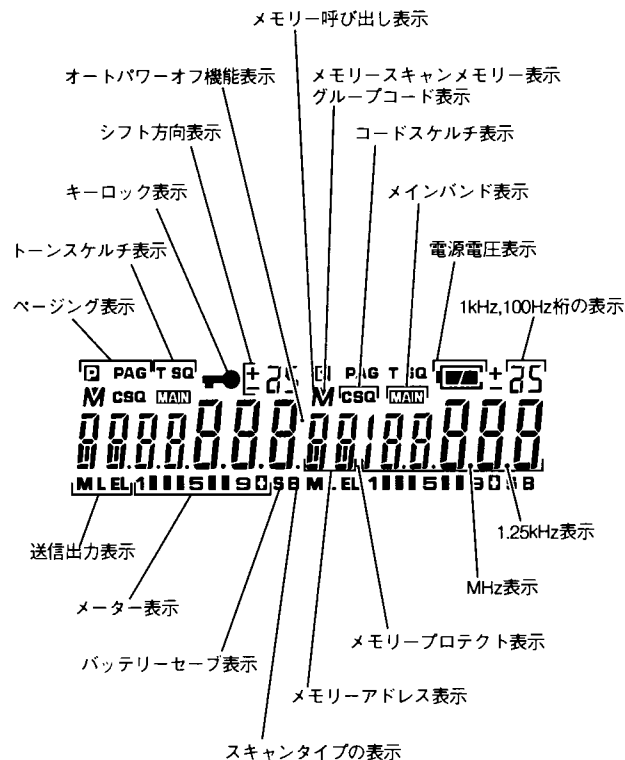
外部電源接続端子

外部電源のプラグを抜き差しするときは、必ず電源を切ってください。外部電源を使用するときの電源範囲は、DC 5.0V～16.0Vです。

②⑩ハンドストラップ

②⑪ベルトクリップ

ディスプレイ



もっと自由にあつかうために

周波数ステップを変えるには	18
周波数を100kHz/1MHzステップで変えるには	18
コール周波数(呼出周波数)を使うには	19
コール周波数を変えるには	19
コール周波数を一時的に変えるには(コールシフト)	20
コール周波数に各種設定を書き込むには	20
間違って操作するのを防ぐには(キーロック)	21
キーロック中でもセクターを使えるようにするには	21
スケルチをコントロールするには	22
送信出力を変えるには	22
サブバンドを消すには	23
バンドを切り替えるには	23
セットモードの機能を簡単に切り替えるには(マイキー)	24
ディスプレイのランプを点灯させるには	24

周波数ステップを変えるには

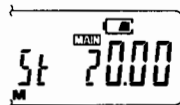


- 最初の設定では、セレクターを回すと周波数は20kHzのステップでかわります。この周波数のステップを変えることができます。

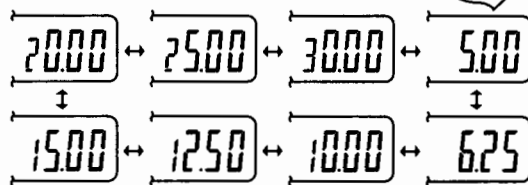
F + **0** 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/STB]** キーを押す



2 セレクターを回し、表示をSt 20.00にする



F + **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回しステップ周波数を変更する



F + **0** 4 終了するには、**[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/STB]** キーを押す



433.23

ドット

- ◆ 6.25kHzステップでは、ドットが点灯することがあります。このときの周波数は、表示されている周波数に1.25kHz加算された周波数になっています。表示例では、433.23125MHzを示します。

周波数を100kHz/1MHzステップ



で変えるには

- 周波数のステップを100kHzまたは1MHzで変えることができます。

ステップを100kHzで変えるには

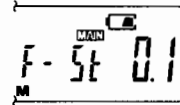
F + **1** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回す

ステップを1MHzで変えるには

F + **0** 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/STB]** キーを押す



2 セレクターを回し、表示をF-St 0.1にする



F + **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し表示を0.1から1.0にする

F + **0** 4 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/STB]** キーを押す

F + **5** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、1MHzステップで周波数を変えることを確かめる

コール周波数(呼出周波数) を使うには

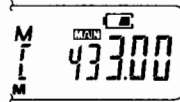
- コール周波数は、VHF帯では145.00MHz、UHF帯では433.00MHzです。

- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする



- 2 [SFT CALL] キーを押す

- 3 ディスプレーにCが表示され、コール周波数になったことを確かめる



- 4 VFO状態に戻すには、[SFT CALL] キーを押す



◆セレクトターを回すと、表示されていたコール周波数がVFOの周波数になります。

◆手順4で[*PSCL]キーを押すと、表示されている周波数でVFO状態に戻ります。

コール周波数を変えるには

- コール周波数を違う周波数に変更できます。

- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする

- 2 変更したい周波数にする

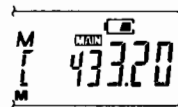


- 3 [FUNC] キーを押しながら、[ENT V/M] キーを押す



- 4 [SFT CALL] キーを押す

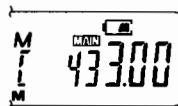
- 5 ディスプレーに約1秒間Cが表示され、VFO状態に戻ったことを確かめる



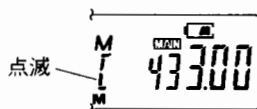
コール周波数を一時的 にを変えるには(コールシフト)

- コール周波数を一時的に変えることができます。

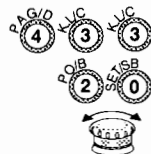
- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする
- 2 **[SFT CALL]** キーを押す
- 3 ディスプレーにCが表示され、コール周波数になったことを確かめる



- [F] + [SFT CALL]** 4 **[FUNC]** キーを押しながら、**[SFT CALL]** キーを押し、Cが点滅することを確認する



- 5 キーボードまたはセクターを使って周波数を変更する



- 6 コール周波数に戻すには、**[SFT CALL]** キーを押す



- ◆手順6で**[FUNC]** キーを押しながら、**[ENT V/M]** キーを押すと変更した周波数が記憶されます。このとき、Cは、点滅から点灯になります。

コール周波数に各種設定を 書き込むには

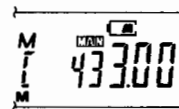
- コール周波数に各種の設定を書き込むことができます。設定できるのは、レピータ、ページング、コードスケルチ、トーンスケルチです。

- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする



- 2 **[SFT CALL]** キーを押す

- 3 ディスプレーにCが表示され、コール周波数になったことを確かめる



- 4 各種の設定を行う
レピータモード (P42)
ページングモード (P54)
コードスケルチモード (P57)
トーンスケルチモード (P65)
トーンエンコードモード (P65)



- 5 VFO状態には、**[SFT CALL]** キーを押す

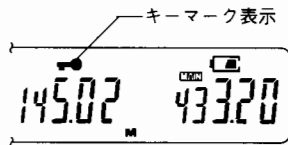


- ◆手順4で、オフセット周波数(P44)、レピータ運用のトーン周波数(P44)そしてトーン周波数(P65)を変更すると、そのコール専用の周波数を設定することができます。

間違って操作するのを防ぐには (キーロック)

- キー操作をできないようにすることが出来ます。これはキーを間違って押し、動作が変わってしまうのを防ぐためです。この操作をキーロックと呼びます。

- F** +  **3** **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[3 K/LC]** キーを押す
- 2** ディスプレーにキーマークが表示されることを確かめる



◆この操作を解除するには、**[FUNC]** キーを押しながら、**[3 K/LC]** キーを押します。

◆キーロックが働いているときでも、**[FUNC]**、**[LAMP]**、**[SQ/OFF]**、**[PWR]**、**[FUNC] + [2 PO/B]** キーは使えます。

キーロック中でもセクターを 使えるようにするには

- キーロック中はセクターも操作出来ません。しかしこの操作を行うと操作出来るようになります。ただし、この操作は、キーロックを設定する前に行ってください。

- F** +  **0** **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/USB]** キーを押す



- 2** セクターを回し、表示をFLCH OFFにする



- F** +  **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セクターを回し表示をOFFからonにする

- F** +  **0** **4** もとの表示に戻るには、**[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/USB]** キーを押す



◆この機能をもとに戻すには、手順3で表示をonからOFFにしてください。

スケルチをコントロールするには

スケルチオフするには

- スケルチが働いていると弱い信号を受けたときに、音が出なかったり、途切れたりします。このようなときに、スケルチを一時的にオフできます。



1 スケルチをオフするには、[SQLOFF] キーを押す



2 [SQLOFF] キーを放すと、スケルチは働らく



◆[FUNC] キーを押しながら、[SQLOFF] キーを押すとサブバンドのスケルチがオフします。

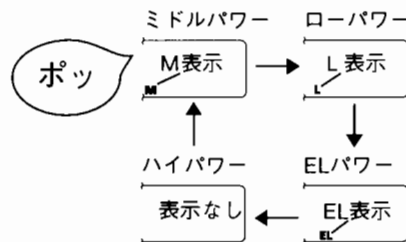
◆メインバンドで送信中に、[SQLOFF] キーを押すとサブバンドのスケルチがオフします。

送信出力を変えるには

- 送信出力を変更することができます。



1 [FUNC] キーを押しながら、[2PQB] キーを押す
このキーを押すたびに、表示は変わる



◆送信出力と電池の関係は下の表のようになります。電池の状態により値は多少変化します。

使用電池	CNB172	CNB171	CBT171
送信出力	CNB173		
ハイ(Hi)パワー	5.0 W	2.6 W	2.5 W
ミドル(Mid)パワー	2.5 W	2.5 W	2.5 W
ロー(Low)パワー	0.35 W	0.35 W	0.35 W
ELパワー	50mW	50mW	50mW

◆1.2GHz帯での送信は、ELパワーのみです。また、この時の送信出力は、約35mWです。

サブバンドを消すには

(バンドオフ)

-  **1** **[MONO MAIN]** キーを押し、メインバンドを選ぶ
- F** +  **2** **[FUNC]** キーを押しながら、**[MONO MAIN]** キーを押す
- 3** サブバンドが消えたことを確かめる



◆この操作を解除するには、**[MONO MAIN]** キーを押してください。

バンドを切り替えるには

- VHFのバンドをUHFに、UHFのバンドをVHFに切り替えることができます。また、UHFのバンドは、通常430MHz帯です。本機では、1.2GHz帯の運用もできます。

VHFバンドをUHFにするには

-  **1** VHFバンドをメインバンドにし、VFO状態にする
-  **2** **[PAG/D]** キーを押す
-  **3** 表示部がUHFの入力待ちになることを確かめる
-  **4** 10MHz以下の周波数をキーボードから入力する

UHFバンドをVHFにするには

-  **1** UHFバンドをメインバンドにし、VFO状態にする
-  **2** **[M/V/A]** キーを押す
-  **3** 表示部がVHFの入力待ちになることを確かめる
-  **4** 10MHz以下の周波数をキーボードから入力する

UHFバンドを1.2GHz帯にするには

-  **1** UHFバンドをメインバンドにし、VFO状態にする
-  **2** **[PO/B]** キーを押す
-  **3** 表示部が1.2GHzの入力待ちになることを確かめる
-  **4** 10MHz以下の周波数をキーボードから入力する



◆1.2GHz帯では、10kHz桁の入力が終わると、送信出力の表示は、ELになります。

セットモードの機能を簡単に 切り替えるには(マイキー)

- **[1MY/A]** キーによく使うセットモードを登録することができます。初期状態(工場出荷時)には、デュアルワッチが登録されています(**P.38**)。なお、登録できるセットモードは、ON/OFFの選択などのように二者択一をするモードです。

セットモードの内容を切り替えるには

F + **MYA** **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[1MY/A]** キーを押す

マイキーに登録するには

F + **SET/USB** **0** **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET/SB]** キーを押す

- 2** セレクターを回し、登録したいセットモードを表示する

F + **MYA** **1** **3** **[FUNC]** キーを押しながら、**[1MY/A]** キーを押す



- ◆ セットモードの内容を切り替えたとき、初期状態に戻った時は「ボッ」音がします。それ以外では、「ピッ」音がします
- ◆ 登録できないセットモードは、手順3を行うと、「ブー」音がします。登録できると「ピッ」音がします。
- ◆ オールリセットを行うと、このキーに書き込まれた内容は、消去されます。そして、初期状態のデュアルワッチが登録されます。

ディスプレイのランプを 点灯させるには

- 暗い場所等で使うときに、ディスプレイのランプを点灯させることができます。この時、ランプは、5秒間点灯します。また、ランプを点灯させたままにすることもできます。

ランプを点灯させるには



[LAMP] キーを押す

ランプを点灯させたままにするには



F + **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[LAMP]** キーを押す



F + **2** この動作を解除するには、**[FUNC]** キーを押しながら、**[LAMP]** キーを押す



- ◆ **[PTT]**、**[SQLOFF]**、**[FUNC]** キー以外の各キーおよびセレクターを操作している間は、ランプは点灯しています。

メモリー機能を使うには

メモリー機能について	26
メモリーするには	26
メモリーを呼び出すには	27
メモリーを変更するには	27
メモリーを消すには	28
メモリーモードの周波数を一時的に変えるには(メモリーシフト).....	28
メモリー周波数に各種設定を書き込むには	29
メモリーを変更できないようにするには(メモリープロテクト)	29
メモリーユニットの取り付け、取り外すには	30
メモリーユニットについて	30

メモリー機能について

- よく使う周波数をメモリーユニットに書き込むことができます。本機は、付属品としてメモリーユニットを標準装備しています。このメモリーユニットには、UHF帯20波、VHF帯20波の周波数を書き込むことができます。また、別売のメモリーユニットCMU161と交換することで、UHF帯100波、VHF帯100波の周波数を書き込むことができます。
- メモリーに書き込みを行っているときや、メモリーを呼び出しているときをメモリーモードといいます。
- メモリーアドレスとは、周波数を書き込んだメモリーの番号です。メモリーアドレスは00～19まであります。メモリーユニットをCMU161に変更すると、メモリーアドレスは00～99になります。
- それぞれの周波数には、レピーターモード、ページングモード等も書き込むことができます。また、トーン周波数やオフセット周波数は各メモリーごとに違ったものを書き込むことができます。
- 周波数にあわせて、書き込みができるのは次のとおりです。
 - レピーターモード (P 42)
 - ページングモード (P 54)
 - コードスケルチモード (P 57)
 - トーンスケルチモード (P 65)
 - トーンエンコードモード (P 65)
- また、書き込んだ内容を間違って、変えたり、消したりしないために、メモリープロテクト機能 (P 29) があります。

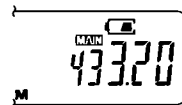


◆トーン周波数、オフセット周波数は各メモリーごとに違ったものを書き込みできます(P 29)。

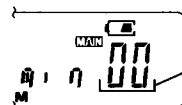
メモリーするには

- よく使う周波数を、メモリーに書き込むことができます。

- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする
- 2 メモリーに書き込みたい周波数にする



- F** + **ENT** **V/M** **3** **FUNC** キーを押しながら、**ENT V/M** キーを押す
- 4 メモリーの書き込み状態になることを確かめる



- F** + **ENT** **V/M** **5** **FUNC** キーを押しながら、**ENT V/M** キーを押す
- 6 Mが約1秒間表示され、VFO状態に戻ったことを確かめる



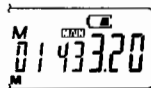
- ◆手順3を行うと、VFO状態に戻るまで周波数は変更できません。
- ◆手順4で表示されるメモリーアドレスは、書き込まれていないものの中で、番号の一番小さいものです。
- ◆手順4で、メモリーアドレスに空がないと、min--を表示します。このときは、「メモリーを変更するには」(P 27)の手順に従って、メモリーの内容を書き換えてください。
- ◆手順4で、表示された以外のメモリーアドレスに書き込むときは、セクターを使って書き込みたいメモリーアドレスの番号にしてください。
- ◆手順4で、キーボードから直接メモリーアドレスを入力すると、そのアドレスにメモリーされていても、書き込みたい内容をメモリーします。

メモリーを呼び出すには

- 書き込まれているメモリーを呼び出します。呼び出す方法には、セクターを使う方法とキーボードを使う方法があります。

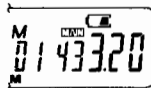
セクターを使う方法

- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする
- 2  **[ENT V/M]** キーを押す
- 3  セクターを回し、呼び出すメモリーアドレスにする
- 4  **[ENT V/M]** キーを押す



キーボードを使う方法

- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする
- 2  **[ENT V/M]** キーを押す
- 3  キーボードから呼び出すメモリーアドレスを入力する
- 4  **[ENT V/M]** キーを押す
 元のVFO状態に戻るには、 **[* PSCL]** キーを押す



- ◆メモリーを呼び出したときに、Mが点滅することがあります。これは、呼び出したメモリーアドレスに周波数が書き込まれていないためです。この状態を空メモリーといいます。

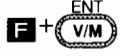
メモリーを変更するには

- 記憶しているメモリーを別の周波数に変えることができます。

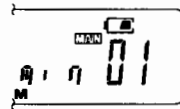
- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする

- 2 メモリーしたい周波数にする



- 3  **[F + ENT V/M]** キーを押しながら、 **[FUNC]** キーを押しながら、 **[ENT V/M]** キーを押す

- 4  キーボードから変更したいメモリーアドレスを入力する



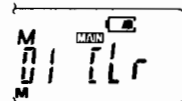
- 5 ピー音がし、VFO状態に戻ったことを確かめる
(これで新しい周波数が記憶されました。)



- ◆メモリーシフトを使って、別の周波数に変える方法もあります(D28)。

メモリーを消すには

- 書き込まれているメモリーを消すことができます。

- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする
 - 2 **[ENT V/M]** キーを押す
 - 3 消したいメモリーアドレスを呼び出す
- 
- 4 **[F] + [ENT V/M]** **[FUNC]** キーを押しながら、**[ENT V/M]** キーを押す
 - 5 ディスプレーにCLrが表示されるのを確認する
- 
- 6 **[F] + [ENT V/M]** **[FUNC]** キーを押しながら、**[ENT V/M]** キーを押す
 - 7 ビー音がし、Mが点滅することを確認する
(これで周波数が消去されました。)
 - 8 **[ENT V/M]** キーを押す
VFO状態に戻ったことを確かめる

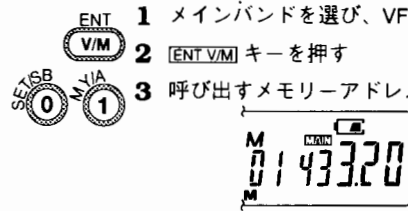
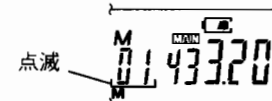
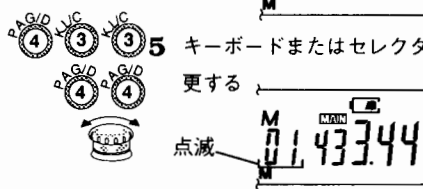


◆手順6を行うと、消えたメモリーを復活させることはできません。メモリーを消さない場合は、手順6を行う前に $\star$ PS/CLキーを押してください。

◆メモリープロテクトがonになっているときに、手順4を行うと、「ブー」音がし、メモリーを消すことはできません。

メモリーモードの周波数を一時的 に変えるには(メモリーシフト)

- メモリーモードで呼び出した周波数を一時的に変えることができます。

- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする
 - 2 **[ENT V/M]** キーを押す
 - 3 呼び出すメモリーアドレスにする
- 
- 4 **[F] + [SFT CALL]** **[FUNC]** キーを押しながら、**[SFT CALL]** キーを押し、メモリーアドレスが点滅することを確認する
- 
- 5 キーボードまたはセクターを使って周波数を変更する
- 
- 6 メモリーモードの周波数に戻すには、 $\star$ PS/CLキーを押す



◆手順6で**[FUNC]** キーを押しながら、**[ENT V/M]** キーを押すと変更した周波数が記憶されます。このとき、メモリーアドレスは、点滅から点灯になります。**[ENT V/M]** キーを押すと、元のVFO周波数になります。

メモリー周波数に各種設定を 書き込むには

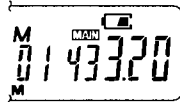
- 書き込まれているメモリー周波数に、各種の設定を書き込むことができます。

- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする



- 2 [ENT V/M] キーを押し、メモリーモードにする

- 3 設定を行うメモリーアドレスにする



- 4 各種の設定をする

レピータモードの設定 (P 42)

ページングモードの設定 (P 54)

コードスケルチモードの設定 (P 57)

トーンスケルチモードの設定 (P 65)

トーンエンコーダーモードの設定 (P 65)



- 5 [ENT V/M] キーを押す

- 6 VFO状態に戻ったことを確かめる



◆手順4で、オフセット周波数(P44)、レピータ運用のトーン周波数(P44)そしてトーン周波数(P65)を変更すると、そのメモリー専用の周波数を設定することができます。

メモリーを変更できないように するには(メモリープロテクト)

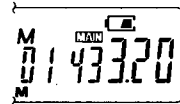
- メモリーされているいろいろな設定を間違えて変更したり、消すのを防ぐことができます。また、コール周波数にも、この設定を行えます。

- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする



- 2 [ENT V/M] キーを押し、メモリーモードにする

- 3 設定を行うメモリーアドレスにする



- 4 [FUNG] キーを押しながら、[0 SET/SB] キーを押す



- 5 セクターを回し、ディスプレイの表示をPro OFFにする

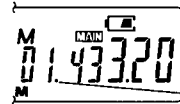


- 6 [FUNG] キーを押しながら、セクターを回し、ディスプレイの表示をOFFからonにする



- 7 [FUNG] キーを押しながら、[0 SET/SB] キーを押す

- 8 メモリープロテクトが働いていることを確かめる

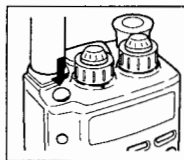


メモリープロテクト
を示す

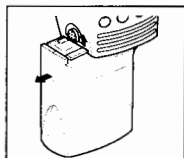


◆空メモリー状態では、この設定は行えません。
◆メモリープロテクトがonでも、オールリセットを行うと、メモリーは消去されます。

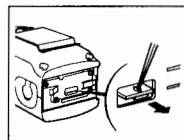
メモリーユニットの取り付け、 取り外すには



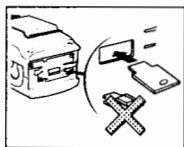
1 無線機の電源を切る



2 電池ケースを外す



3 無線機に付いている、メモリーユニット を外す (メモリーユニットの丸穴にピンセット 等の先を入れ、引き出します。)



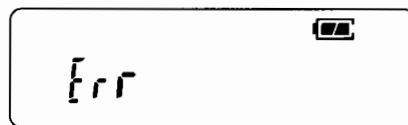
4 メモリーユニットの上下を確認して取り 付ける (上下を逆にして、無理に取り付けると、 無線機のコネクターを破損します。)



◆メモリーユニットはコネクターの奥までまっすぐ確実に差し込んでください。メモリーユニットが確実に差し込まれていないと、誤動作や故障の原因になります。

メモリーユニットについて

- 本機で使用できないメモリーユニットを取り付けると、警告音が鳴り、ディスプレイが下記ようになります。このような時は、電源を切って、メモリーユニットを取り外してください。



- 当社のハンディートランシーバーC160、C460、C170、C470、C550のメモリーユニットを取り付けても、上記のような動作になります。しかし、これらのメモリーユニットは、オールリセット(D-12)を行うと、本機でも使うことができます。ただし、オールリセットを行うとメモリーしていた内容はすべて消去されます。
- 本機には、メモリーユニットの保護機能があります。この機能は、電源電圧が低下したとき、メモリーユニットへの書き込みを中止するものです。ディスプレイの電池マークが点滅すると、この機能が働きます。この機能が働いているとき、キーを操作するとブー音が出ます。
- 本機に、メモリーユニットが取り付けられていないと、メモリー機能、DTMFメモリーは使用できません。また、電源を入れるたびに、全て初期状態に戻ります。

スキャン機能を使うには

スキャン機能について	32
1MHz内でスキャンするには(1MHzスキャン)	33
バンドの全域をスキャンするには(オールスキャン)	33
指定した範囲をスキャンするには(プログラムスキャン)	34
メモリー周波数をスキャンするには(メモリスキャン)	34
指定したメモリー周波数をスキャンするには(メモリスキャンメモリー)	35
メモリー周波数をブロックごとにスキャンするには(ブロックメモリスキャン)	36
指定したメモリー周波数をブロック内でスキャンするには (ブロックメモリスキャンメモリー)	37
トーン周波数をスキャンするには(トーンスケルチスキャン)	37
デュアルワッチを行うには	38
デュアルワッチをメモリーアドレスM00とVFO周波数で行うには	38
デュアルワッチをメモリーアドレスM00以外とVFO周波数で行うには	39
デュアルワッチをコール周波数とVFO周波数で行うには	39
デュアルワッチをメモリスキャン周波数とVFO周波数で行うには	40
デュアルワッチを行う時間を変えるには	40

スキャン機能について

●この機能は、自動的に周波数を変え、受信したい信号を探し出すものです。

●この機能には、次の7種類の方法があり、より早く信号を探し出すことができます。

1MHzスキャン

周波数の1MHz台は越えずにスキャンします。

オールスキャン

バンドの全域をスキャンします。

プログラムスキャン

指定した範囲をスキャンします。

メモリスキャン

メモリーしている周波数をスキャンします。

メモリスキャンメモリー

指定したメモリーをスキャンします。

ブロックメモリスキャン

メモリーをブロック単位でスキャンします。ブロックとは、メモリーアドレスの10の桁を1つのブロックとします。

トーンスケルチスキャン

トーン周波数をスキャンします。トーン周波数が一致したときにスキャンが停止し、スケルチが開きます。このスキャンを行うには、トーンスケルチユニットCTN56Q(別売り品)が必要です。

●スキャンの止まりかたには、次の3種類があります。

ポーズスキャンタイプ

信号を受けるとスキャンは止まります。しかし、約5秒後には信号を受けていてもスキャンを再開します。

ビジースキャンタイプ

信号を受けている間は、スキャンは止まります。信号が無くなると、約2秒後にスキャンを再開します。

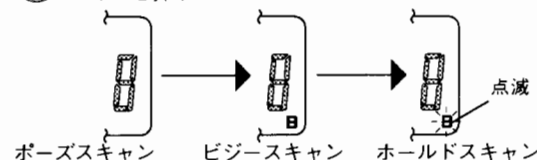
ホールドスキャンタイプ

信号を受けるとスキャンを一時保留します。信号が無くなってから、スキャンを再開するときは、セレクトを回します。

スキャンタイプを変更するには



スキャン中に[FUNC]キーを押しがら、[0SET/SQL]キーを押す



スキャンする前には、ザーという音が出ない位置まで、SQLツマミを回します。



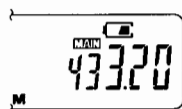
◆1MHzスキャン、オールスキャンとプログラムスキャンのスキャンを行うステップは、周波数ステップと同じです。ステップを変えるときは、周波数ステップを変更してください。

1MHz内でスキャンするには (1MHzスキャン)

●その表示されている周波数の1MHz台を越えずに、スキャンします。レピータバンドをスキャンするときなどに便利です。

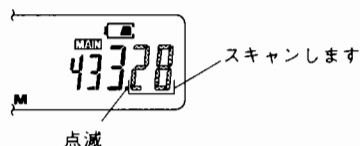
1 メインバンドを選び、VFO状態にする

2 スキャンを始めたい周波数にする



F + **S/C** 3 **[FUNC]** キーを押しながら **[*PSCL]** キーを押す

4 100kHz台以下がスキャンしていることを確かめる



S/C 5 終了するには、**[*PSCL]** キーを押す



◆このスキャンを行っているとき、**[FUNC]** キーを押しながらセクターを回すと、スキャンを停止させずに、MHz台を変更することができます。

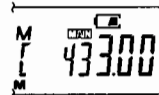
バンドの全域をスキャンするには (オールスキャン)

●バンドの全域をスキャンします。

1 メインバンドを選び、VFO状態にする

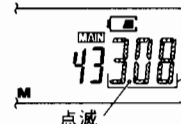


2 **[SFT CALL]** キーを押し、コール周波数になったことを確かめる



3 **[FUNC]** キーを押しながら **[*PSCL]** キーを押す

4 スキャンしていることを確かめる



(コール周波数にする前のVFO状態の周波数からスキャンを始めます。)

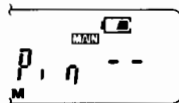


5 終了するには、**[*PSCL]** キーを押す

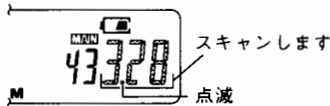
指定した範囲をスキャンするには (プログラムスキャン)

- メモリーされている周波数を使い、スキャンを始める周波数と終わる周波数を指定します。

- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする
- 2 **[ENT V/M]** キーを押し、メモリーモードにする
- 3 セレクターまたはキーボードで1つ目の周波数のメモリーアドレスにする
- 4 **[FUNC]** キーを押しながら、**[* PS CL]** キーを押す
- 5 Pin --が表示されることを確かめる



- 6 キーボードで2つ目の周波数のメモリーアドレスを入力する
- 7 スキャンが始まることを確かめる



- 8 終了するには、**[* PS CL]** キーを押す

- ◆周波数の低いほうを先に指定すると、周波数の高いほうへスキャンします。周波数の高いほうを先に指定すると、周波数の低いほうへスキャンします。

- ◆空メモリーを指定すると、ブー音が生じて、このスキャンは行えません。

メモリー周波数をスキャンするには (メモリースキャン)

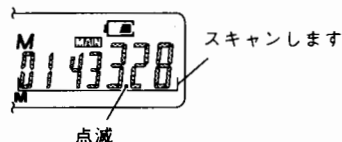
- メモリーしている周波数をすべてスキャンします。

- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする



- 2 **[#MSMMS]** キーを押す

- 3 スキャンが始まることを確かめる



- 4 終了するには、**[*PSCL]** キーを押す



- 5 もとのVFO状態に戻るには、**[ENT V/M]** キーを押す
表示されている周波数でVFO状態に戻るには、**[*PSCL]** キーを押す



- ◆全てのメモリーアドレスが空メモリーのときは、手順2でブー音が生じて、このスキャンは行えません。

指定したメモリー周波数をスキャンするには (メモリースキャンメモリー)

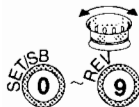
●スキャンしたいメモリーを指定してスキャンします。

スキャン前の準備 (メモリーの指定)

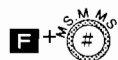
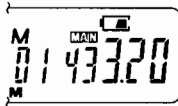
1 メインバンドを選び、VFO状態にする



2 [ENT V/M] キーを押し、メモリーモードにする

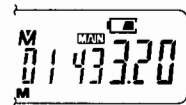


3 セレクターまたはキーボードでスキャンしたいメモリーを呼び出す



4 [FUNC] キーを押しながら、[#MS/MMS] キーを押す

5 Mの上に▼が表示されることを確かめる



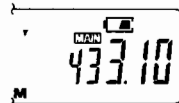
6 他のメモリーを指定するときは、手順3から5と同じ操作を行う



7 終了するには、[ENT V/M] キーを押す

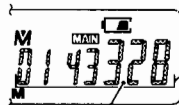
スキャンするには

- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする
- 2 [FUNC] キーを押しながら、[#MS/MMS] キーを押す
- 3 ▼が表示されることを確かめる



4 [#MS/MMS] キーを押す

5 指定したメモリーのスキャンが始まることを確かめる



スキャンします

点滅



6 終了するには、[*PS/CL] キーを押す



7 もとのVFO状態に戻るには、[ENT V/M] キーを押す



表示されている周波数でVFO状態に戻るには、[*PS/CL] キーを押す



◆メモリースキャン中に[FUNC] キーを押しながら、[#MS/MMS] キーを押すと、メモリースキャンとメモリースキャンメモリーを切り替えることができます。

◆メモリースキャンメモリーが1つも指定されていないと、このスキャンは行えません。

メモリー周波数をブロックごとにスキャンするには (ブロックメモリースキャン)

- メモリーのスキャンをブロック内で行います。
- ブロックとは、メモリーアドレスの10の桁を1つのブロックとします。
- ブロック番号とメモリーアドレスの関係は下の表のようになっています。
- ブロック番号2以降は別売りのメモリーユニットCMU161を取り付け時に使用できます。

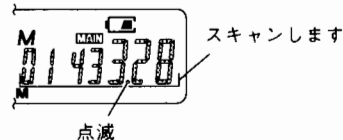
ブロック番号	メモリー番号
0	M00～M09
1	M10～M19
2	M20～M29
3	M30～M39
4	M40～M49
5	M50～M59
6	M60～M69
7	M70～M79
8	M80～M89
9	M90～M99

- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする



- 2 [#MSMMS]キーを押す

- 3 メモリースキャンが始まることを確かめる



- 4 スキャンを行うブロック番号をキーボードから入力する



- 5 終了するには、[*PSCL]キーを押す



- 6 もとのVFO状態に戻るには、[ENT V/M]キーを押す



- 表示されている周波数でVFO状態に戻るには、[*PSCL]キーを押す



- ◆手順5で、[#MSMMS]キーを押すと、メモリースキャンが再開します。

- ◆指定したブロックのメモリーがすべて空メモリーのときは、「ブー」音がして受け付けません。

指定したメモリー周波数をブロック内でスキャンするには (ブロックメモリスキャンメモリー)

●メモリスキャンメモリーをブロック内で行います。

1 メインバンドを選び、VFO状態にする

F +  **2** **[FUNC]** キーを押しながら、**[#MS.MMS]** キーを押す

3 ▼が表示されることを確かめる

 **4** **[#MS.MMS]** キーを押し、メモリスキャンメモリーを始める

 **0**  **9** **5** スキャンを行うブロック番号をキーボードから入力する

 **6** 終了するには、**[*PSC]** キーを押す

 **7** もとのVFO状態に戻るには、**[ENT V/M]** キーを押す
表示されている周波数でVFO状態に戻るには、**[*PSC]** キーを押す



◆手順6で、**[#MS.MMS]** キーを押すと、メモリスキャンメモリーが再開します。手順6で、**[FUNC]** キーを押しながら、**[#MS.MMS]** キーを押すと、ブロックメモリスキャンを行います。

◆指定したブロックのメモリーがすべて空メモリー、または▼がメモリーに付けられていないときは、「ブー」音がして受け付けません。

トーン周波数をスキャンするには (トーンスケルチスキャン)

●トーン周波数をスキャンします。受信周波数は変わりません。

●このスキャンは、ビジースキャンのみです。スキャン方式は変更できません。

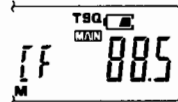
●このスキャンを行うには、別売りのトーンスケルチユニットCTN560が必要です。

1 メインバンドを選び、トーンスケルチを働かせる



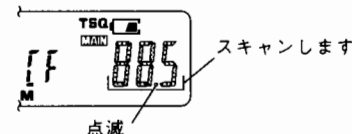
F +  **0** **2** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET/USB]** キーを押す

 **3** セレクターを回し、表示OF 88.5にする



F +  **4** **[FUNC]** キーを押しながら、**[*PSC]** キーを押す

5 スキャンが始まることを確かめる



 **6** 終了するには、**[*PSC]** キーを押す

デュアルワッチを行うには



- VFOと別の周波数を交互に受信を行うことを、デュアルワッチといいます。
- 指定したメモリアドレスが空メモリーのときは、「ブー」音がして、この動作は行えません。
- メモリー周波数またはコール周波数に信号があると、その信号が無くなるまで、デュアルワッチは停止します。
- VFO周波数で受信したときは、そのまま動作が続きます。受信音が途切れることがありますが故障ではありません。
- 本機の初期状態(工場出荷時)では、**[1MYA]**キーにセットモードのデュアルワッチが登録されています。これ以降の手順は、この状態が設定されていることを前提に説明を行っています。**[1MYA]**キーにデュアルワッチが登録されていても、**[FUNC]**キーを押しながら、**[0SET/5B]**キーを押してセットモードを呼び出すと、デュアルワッチはオフになります。

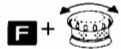
[1MYA]キーにデュアルワッチが登録されていないときは

- ◆本文中の「**[FUNC]**キーを押しながら、**[1MYA]**キーを押す」代わりに

F + **0** 1 **[FUNC]**キーを押しながら、**[0SET/5B]**キーを押す



2 セレクターを回し、表示をdUAL OFFにする



3 **[FUNC]**キーを押しながら、セレクターを回すと、デュアルワッチが始まる

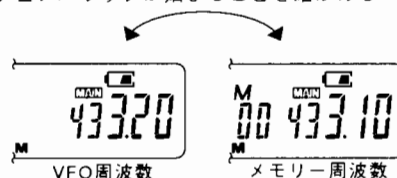
デュアルワッチをメモリアドレスM00とVFO周波数で行うには

1 メインバンドを選び、VFO状態にする



2 **[FUNC]**キーを押しながら、**[1MYA]**キーを押す

3 デュアルワッチが始まることを確かめる



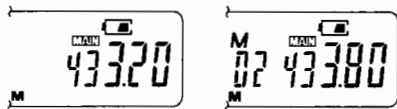
4 終了するには、**[*PSCL]**キーを押す



- ◆メモリアドレスM00が空のときは、「ブー」音がして、この操作を受け付けません。
- ◆VFO周波数で信号があっても、3秒に一度メモリー周波数の受信を行います。
- ◆メモリー周波数に信号があると、その信号が無くなるまで、メモリー周波数のままです。

デュアルワッチをメモリアドレス M00以外とVFO周波数で行うには

- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする
- 2 **[ENT V/M]** キーを押し、メモリーモードにする
- 3 セレクターまたはキーボードでデュアルワッチを行う、メモリアドレスにする
- 4 **[FUNC]** キーを押しながら、**[1 MYA]** キーを押す
- 5 3秒に1度メモリー周波数を受信することを確認める



- 6 終了するには、**[* PSCL]** キーを押す



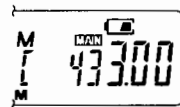
- ◆メモリアドレスM00とデュアルワッチを行うときも、この方法で行えます。
- ◆指定したメモリアドレスが空メモリーのときは、この動作は行えません。

デュアルワッチをコール周波数と VFO周波数で行うには

- 1 メインバンドを選び、VFO状態にする

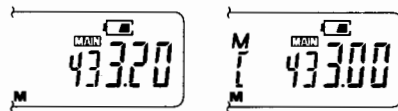


- 2 **[SFT CALL]** キーを押し、コール周波数にする



- 3 **[FUNC]** キーを押しながら、**[1 MYA]** キーを押す

- 4 3秒に1度コール周波数を受信することを確認める



- 5 終了するには、**[* PSCL]** キーを押す

デュアルワッチをメモリスキャン

周波数とVFO周波数で行うには

1 メインバンドを選び、VFO状態にする



2 [#MMS] キーを押す

3 メモリスキャンが始まることを確かめる



4 [FUNC] キーを押しながら、[1MYA] キーを押す

5 3秒に1度メモリー周波数を受信することを確認する



6 終了するには、[*PSCI] キーを押す



◆メモリスキャンメモリー、ブロックメモリスキャン、ブロックメモリスキャンメモリーも同様にデュアルワッチを行うことができます。手順4を行う前に、各スキャンの状態にしてください。

デュアルワッチを行う



時間を変えるには

●通常は、VFO側を3秒間、メモリー側を0.25秒間で受信します。この間隔をVFO側を0.6秒間、メモリー側を0.6秒間に変更できます。



1 [FUNC] キーを押しながら、[0SET/SE] キーを押す



2 セレクターを回し、表示をdUSPnorにする



3 [FUNC] キーを押しながら、セレクターを回し、表示をnorからFStにする



4 元の表示に戻るには、[FUNC] キーを押しながら、[0SET/SE] キーを押す



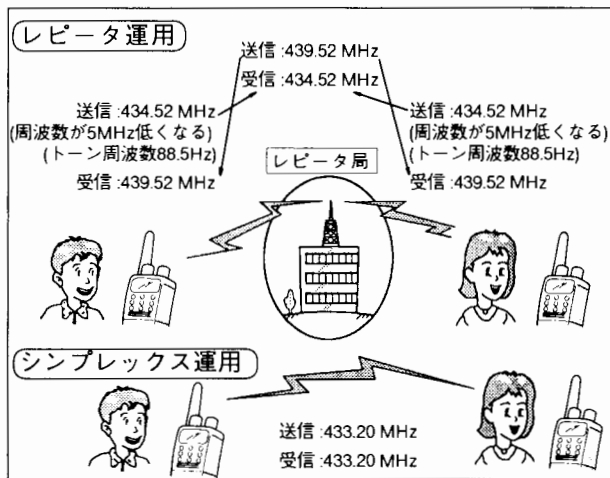
◆元の時間に戻すには、手順3で表示をFStからnorにしてください。

レピータを使うには

レピータ運用について	42
レピータを使うには(オートレピータモード)	42
手動でレピータモードを設定するには	43
レピータ運用時に送信と受信の周波数を逆にするには(リバース).....	43
レピータ運用のオフセット周波数を変えるには	44
レピータ運用のトーン周波数を変えるには	44

レピータ運用について

- レピータ局（自動中継局）を使用して、交信を行うことをレピータ運用といいます。また、この運用できる状態にあるときをレピータモードといいます。
- レピータ局を使用すると、直接電波の届かない場所と交信できます。
- レピータ運用では、送信と受信の周波数が異なります。この周波数の差をオフセット周波数といいます。430MHz帯では、オフセット周波数は5MHzです。1.2GHz帯では、オフセット周波数は20MHzです。
- 本機をレピータモードにして送信すると、自動的に送信周波数がオフセット周波数分だけ低くなります。
- レピータ局は送信信号にトーン信号(88.5Hz)があるときに使用できます。
- 本機をレピータモードにして送信すると、自動的に88.5Hzのトーン信号が出ます。

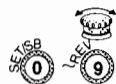


レピータを使うには



(オートレピータモード)

- オートレピータモードとは、受信周波数をレピータ運用の周波数(439MHz台/1290~1292MHz台)に合わせると、自動的にオフセット周波数とトーン信号を設定する機能です。この機能は、144MHz帯では使えません。



- 1 VFO状態にする
- 2 レピータ局の周波数に合わせる
- 3 ディスプレーに"ー"が表示されているのを確かめる

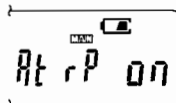


- 4 受信するには、話したい相手が送信するのを待つ
- 5 送信するには、[PTT] を押しながら、マイクに向かって話す

オートレピータモードは、以下の手順で解除できます。



- 1 [FUNC] キーを押しながら、[OSET/SB] キーを押す
- 2 セクターを回し、ディスプレイAtrP onにする



- 3 [FUNC] キーを押しながら、セクターを回し、ディスプレイの表示をonからOFFにする
- 4 終了するには、[FUNC] キーを押しながら、[OSET/SB] キーを押す

手動でレピータモードを

設定するには

- 手動でレピータモードを解除したり、設定したりできます。また、この機能を使うと、送信周波数をオフセット周波数分低くしたり高くすることができます。

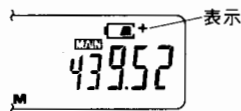


- 1 セレクターを回し、レピータ局の周波数に合わせる

- 2 ディスプレーにーが表示されるのを確かめる



- 3 **[FUNC]** キーを押しながら、**[8 RPT]** キーを押し、+を表示させる
(送信周波数がオフセット周波数分高くなります。)



- 4 もう一度、**[FUNC]** キーを押しながら、**[8 RPT]** キーを押すと+が表示が消え、レピータモードが終る



- ◆オフセットした周波数がアマチュアバンドからはずれるときは、送信できません。このとき、**[PTT]** を押すとブー音がします。
- ◆レピータ運用周波数以外で、周波数を変更すると、レピータモードは解除されます。
- ◆オートレピータモードになっているとき、周波数を変更するとーの表示になります。

レピータ運用時に送信と受信の

周波数を逆にするには (リバーズ)

- 一般のレピータ運用時では、送信周波数は受信周波数よりオフセット周波数分低くなっています。しかし、本機では、送信と受信の周波数を逆にすることができます。この機能を使うと、相手局の直接波が受信できます。もし、直接波が受信できるときは、レピータを使わない交信を試して下さい。

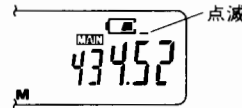
- 1 レピータ局の周波数に合わせる



- 2 **[FUNC]** キーを押しながら、**[9 REV]** キーを押す

- 3 ーが点滅しているのを確かめる

(ディスプレイの周波数がオフセット周波数分低くなります。)



- 4 リバーズを終わらせるには、**[FUNC]** キーを押しながら、**[9 REV]** キーを押す



- ◆リバーズした周波数がアマチュアバンドからはずれるときは、この機能は働きません。このとき、ブー音がします。

レピータ運用のオフセット



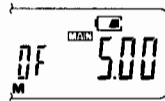
周波数を変えるには

- 本機はオフセット周波数を5MHz以外に設定できます。これは、将来5MHz以外のオフセット周波数を使用するレピータ局に対応するためです。設定できる範囲は、0～39.995MHzです。

F +  **0** 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/SB]** キーを押す



2 セレクターを回し、ディスプレイをOF 5.00にする



F +  **0** 3 **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、新しいオフセット周波数に合わせる

4 終了するには、**[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/SB]** キーを押す



◆キーボードを使うと、1MHzの桁から入力ができます。

レピータ運用のトーン周波数を

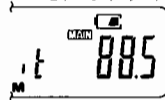


変えるには

- 本機はレピータ用のトーン周波数を88.5Hz以外に設定できます。これは、将来88.5Hz以外のトーン周波数を使用するレピータ局に対応するためです。79.7、82.5、85.4、88.5、91.5、94.8、97.4、100.0 (Hz)の8種類とOFFが用意されています。これら以外のトーン周波数に変えるには別売りのトーンスケルチユニットCTN560が必要です。

F +  **0** 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/SB]** キーを押す

2 セレクターを回し、ディスプレイをit 88.5にする



3 **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、新しいトーン周波数に合わせる



4 終了するには、**[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/SB]** キーを押す

こんな使いかたもできます

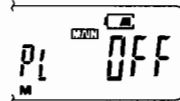
間違って送信しないためには(PTTロック)	46
キーボードから1kHzの桁を入力するには	46
自動的に電源を切るには(オートパワーオフ)	47
電池を長くもたせるには(バッテリーセーブ)	47
送信を自動的に止めるには(タイムアウトタイマー)	48
キー操作時のビープ音を鳴らさないようにするには	48
スケルチが開くときのポップスを小さくするには	49
サブバンドの受信音を消すには(サブバンドミュート)	49
外部スピーカーを切り替えるには	50
ビープ音について	50

間違って送信しないためには (PTTロック)

- 間違って送信しないように、PTTの操作を停止することができます。

F +  **0** 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[Q SET/SB]** キーを押す

 2 セレクターを回し、表示をPL OFFにする



F +  3 **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し表示をOFFからonにする

F +  **0** 4 **[FUNC]** キーを押しながら、**[Q SET/SB]** キーを押す

5 **[PTT]** を押しても、「ブー」音がし、送信しないことを確かめる



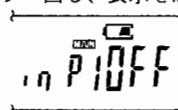
◆この操作を解除するには、手順3で表示をonからOFFに変えます。

キーボードから1kHzの桁を 入力するには

- キーボードを使って、1kHzの桁まで入力することができます。

F +  **0** 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[Q SET/SB]** キーを押す

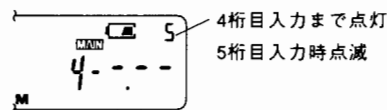
 2 セレクターを回し、表示をinP1 OFFにする



F +  3 **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し表示をOFFからonにする

F +  **0** 4 **[FUNC]** キーを押しながら、**[Q SET/SB]** キーを押す

5 キーボードを使って、100MHzの桁から入力する



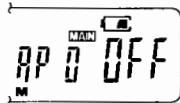
◆本機で扱えない周波数が入力されたときは、自動的に本機で扱える周波数に訂正されます。

自動的に電源を切るには (オートパワーオフ)

- 約30分間、送信、受信またはキー操作がないとき、自動的に電源を切ることができます。電源が切れる1分前に警告音(ピッピッピッピッ)が鳴ります。

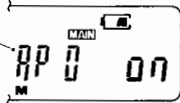
F +  **0** 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[Q SET/SB]** キーを押す

 2 セレクター回し、表示をAPO OFFにする



F +  3 **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し表示をOFFからonにする

オートパワーオフ時点灯



F +  **0** 4 **[FUNC]** キーを押しながら、**[Q SET/SB]** キーを押す



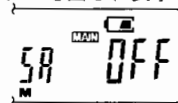
◆この操作を解除するには、手順3で表示をonからOFFに変えます。

◆この機能を使うと、電源の切り忘れによる電池の消耗を抑えることができます。

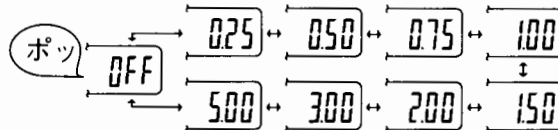
電池を長くもたせるには (バッテリーセーブ)

- 電池を長くもたせるために、本機が消費する電流を少なくすることができます。また、この電流を少なくしている時間を変更できます。

F +  **0** 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[Q SET/SB]** キーを押す
2 セレクターを回し、表示をSA OFFにする

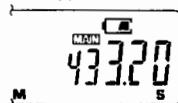


F +  3 **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し表示をOFFから設定する時間にする



(このときの数字は、電流を少なくしている時間を秒で表わしています。)

F +  **0** 4 **[FUNC]** キーを押しながら、**[Q SET/SB]** キーを押す



◆この機能を使うと、話しの始めが切れることがあります。

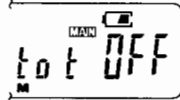
◆ページング、コードスケルチを使用するときは、この機能をOFFにしてください。

送信を自動的に止めるには (タイムアウトタイマー)

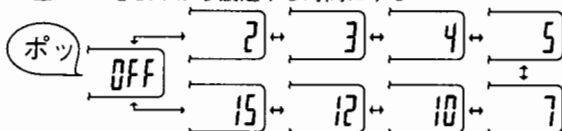
- 送信がある一定の時間を過ぎると、自動的に送信を停止することができます。この時間は変更することができます。送信が停止する約30秒前に、警告音(ピッピッピッピッ)が鳴り知らせます。

F + **SET/SB** **0** **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/SB]** キーを押す

2 セレクターを回し、表示をtot OFFにする



F + **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し表示をOFFから設定する時間にします



(このときの数字は、連続して送信できる時間を分で表わしています。)

F + **SET/SB** **0** **4** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/SB]** キーを押す

キー操作時のビープ音を 鳴らさないようにするには

F + **SET/SB** **0** **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/SB]** キーを押す

2 セレクターを回し、表示をbEEP onにする



F + **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し表示をonからOFFにする

F + **SET/SB** **0** **4** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/SB]** キーを押す



◆この機能をもとに戻すには、手順3で表示をOFFからonにしてください。

◆この設定をOFFにしている場合、次の音は鳴ります。オートパワーオフの警告音、タイムアウトタイマーの警告音、ページング着信時の呼び出し音、ウェイクアップ着信時の呼び出し音。

スケルチが開くときの ポップスを小さくするには

F +  **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/SEL]** キーを押す

 **2** ツマミを回し、表示をmoni OFFにする



F +  **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し表示をOFFからonにする
(スケルチが開くときのポップス[ブツ音]が小さくなります。)

F +  **4** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/SEL]** キーを押す



◆この機能をもとに戻すには、手順3で表示をonからOFFにしてください。

◆この機能を行うと、消費電流が少し増えます。

サブバンドの受信音を消すには (サブバンドミュート)

●メインバンドで送信中に、サブバンドの受信音をとめることができます。

F +  **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/SEL]** キーを押す

 **2** セレクター回し、表示をmutE OFFにする



F +  **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し表示をOFFからonにする

F +  **4** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/SEL]** キーを押す



◆この操作を解除するには、手順3で表示をonからOFFに変えます。

外部スピーカーを切り替えるには

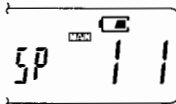


- 外部スピーカー(別売り)を使うと、スピーカーよりUHF帯とVHF帯の音声と同時にします。しかし、どちらかのバンドの音声を内蔵スピーカーから出すことができます。

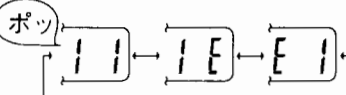
F +  **0** 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET/5B]** キーを押す



2 セレクター回し、表示をSP IIにする



F +  **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し表示をIIから設定する表示にする



外部スピーカー接続

表示	VHFの音声	UHFの音声
II	外部スピーカー	外部スピーカー
IE	内蔵スピーカー	外部スピーカー
EI	外部スピーカー	内蔵スピーカー

外部スピーカーなし

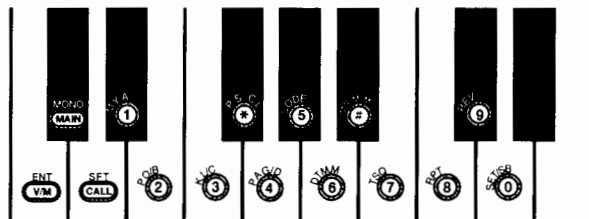
表示	VHFの音声	UHFの音声
II	内蔵スピーカー	内蔵スピーカー
IE	内蔵スピーカー	出ない
EI	出ない	内蔵スピーカー

F +  **0** 4 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET/5B]** キーを押す

ビープ音について

- 本機では、キーロック時にキーを押すと、ドレミ音階のビープ音が出ます。**[LAMP]** キーを押しながら、キーを押すと音階が1オクターブ下がります。
- キーロックが解除されているときは、各動作により音階は異なります。しかし、周波数をキーを使って入力するときは、キーに対応した音階になります。したがって、音によりどの数字が入力されたか確認できます。

キーと音階との対応は、下の図のようになっています。



グループで使うには

ページングとは	52
コードスケルチとは	52
自分の個別コードを設定するには	53
話したい相手のページング・コードスケルチのコードを設定するには	53
グループコードを設定するには	54
ページングで呼び出すには	54
ページングで待ち受けするには	55
ポケットベルのようにページングを使うには	55
ページングの送出時間を遅らせるには	56
ページング・ウェイクアップ待ち受け中での呼び出し音の回数を変えるには	56
コードスケルチを使うには	57
ウェイクアップとは	57
自分のウェイクアップコードを設定するには	58
相手のウェイクアップコードを設定するには	58
ウェイクアップコードの桁を選択するには	59
ウェイクアップで待ち受けするには	59
ウェイクアップで呼び出すには	60
DTMFを使うには	61
PTTを押しながら、DTMF信号を送出するには	61
DTMFコードを書き込むには	62
DTMFメモリーを消去するには	62
メモリーしたDTMFコードを送出するには	63
メモリーしたDTMFコードを確認するには	63
DTMFコードの送出時間の間隔を変更するには	64
トーンスケルチ(CTN560)を使って	64
トーンエンコーダー・トーンスケルチを使うには	65
トーン信号の周波数を変えるには	65

- 本機では、特定の人や、グループを呼び出すことができます。このときに、ページングコードやコードスケルチのコードを呼び出す人に合わせます。また、このコードを利用して電源が切れていても、相手より呼ばれたことが確認できるウェイクアップがあります。

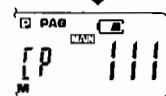
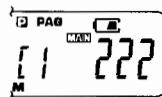
コードスケルチとは、

- 話したい人の個別コードに合わせ、呼び出します。このとき、呼び出された人は、コードスケルチが開きます。また、アラームは鳴らないため、すぐに話しを始めることができます。
- グループを呼び出すときは、グループコードを合わせ呼び出します。このとき、呼び出された人達は、コードスケルチが開きます。また、アラームは鳴らないため、すぐに話しを始めることができます。

ページングとは、

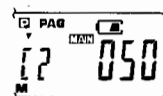
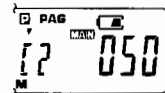
- 話したい人の個別コードに合わせ、呼び出します。このとき、呼び出された人は、ディスプレイに呼び出した人の個別コードが表示されます。また、同時にアラームが鳴ります。
- グループを呼び出すときは、グループコードを合わせ呼び出します。このとき、呼び出されたグループの人達は、ディスプレイに呼び出した人の個別コードが表示されます。また、同時にアラームが鳴ります。

個別コードで呼び出し
個別コード C0 111

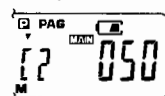


個別コード C0 222

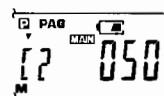
グループコード呼び出し
個別コード C0 111
グループコード C2 050



グループコード
C2 050
個別コード C0 222



グループコード
C2 050
個別コード C0 333

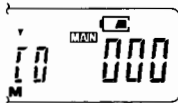


グループコード
C2 050
個別コード C0 444

自分の個別コードを設定するには

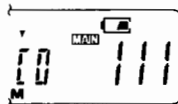
- 話したい相手を呼び出したり、また相手から呼び出されるときに、個別コードが必要です。自分の個別コードは、専用のメモリアドレスC0にメモリーします。

- F** + **CODE 5** **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[5 CODE]** キーを押す
- 2** セレクターを回して、自分の個別コードメモリーにする
(自分の個別コードは、C 0 に設定します。)



- SET/8 0** **REV 9** **3** キーボードを押し、1桁目からコードを入力する

- 4** 3桁目を入力すると、ピー音がしてコードが設定される

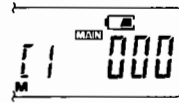


- F** + **CODE 5** **5** もとの表示に戻るには、**[FUNC]** キーを押しながら、**[5 CODE]** キーを押す

話したい相手のページング・コード スケルチのコードを設定するには

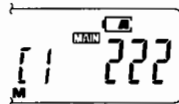
- 話したい相手を呼び出す前に、相手のコードをメモリーする必要があります。

- F** + **CODE 5** **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[5 CODE]** キーを押す
- 2** セレクターを回して、相手の個別コードメモリーにする
(相手の個別コードは、C1～C6に設定します。)



- SET/8 0** **REV 9** **3** キーボードを押し、1桁目からコードを入力する

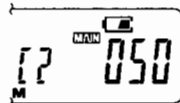
- 4** 3桁目を入力すると、ピー音がしてコードが設定される



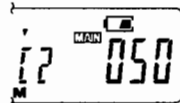
- F** + **CODE 5** **5** もとの表示に戻るには、**[FUNC]** キーを押しながら、**[5 CODE]** キーを押す

グループコードを設定するには

- F** + **CODE** **5** **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[5 CODE]** キーを押す
- 2** セクターを回し、グループコードにしたい相手局のコードを呼び出す
(グループコードは、C1～C6に設定します。)



- F** + **MS.MMS** **#** **3** **[FUNC]** キーを押しながら、**[# MS.MMS]** キーを押す
- 4** Cの上に▼が表示されたことを確かめる
(これで、グループコードになりました。)



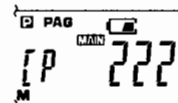
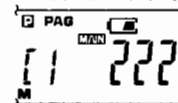
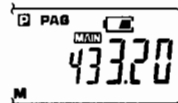
- F** + **CODE** **5** **5** もとに戻すには、**[FUNC]** キーを押しながら、**[5 CODE]** キーを押す



◆自分の個別コード以外(C1～C6)で待ち受ける場合は、グループコードになっていないと、ページングで呼ばれても動作しません。

ページングで呼び出すには

- F** + **PAG/D** **4** **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[4 PAG/D]** キーを押す
- 2** **PAG**が表示されることを確かめる
- F** + **CODE** **5** **3** **[FUNC]** キーを押しながら、**[5 CODE]** キーを押す
- 4** セクターを回して、相手局のコードを呼び出す
- 5** **[PTT]** を押し、送信する
- 6** 相手が答えると、**PAG**が点滅し呼び出し音が鳴る



- F** + **PAG/D** **4** **7** **[FUNC]** キーを押しながら、**[4 PAG/D]** キーを押す
- 8** これ以降は、普通の交信と同じ



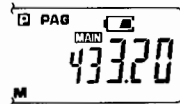
◆再度同じ相手と交信するときは、相手局のコードを設定する必要はありません。したがって、手順3、4は省略できます。

◆**[FUNC]** キーを押すと、アラームを止めることができます。

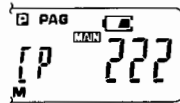
ページングで待ち受けするには

- F** + **AG/D** 4 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[4PAG/D]** キーを押す

- 2 **[P]** **PAG**が表示されることを確かめる



- 3 相手より呼ばれると、**PAG**が点滅し呼び出し音が鳴る



- PTT ON** 4 **[PTT]** を押し、応答する

- F** + **AG/D** 4 5 **[FUNC]** キーを押しながら、**[4PAG/D]** キーを2回押す

- 6 これ以降は、普通の交信と同じ



◆自局コードで呼ばれたときは、CPの表示になります。

◆グループコードで呼ばれたときは、Cnの表示になります。nはグループコード番号を表わします。

ポケットベルのように



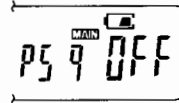
ページングを使うには

- ページングを行って受信しても、スケルチを開かないようにできます。つまり、ページングで受信したとき、相手局のコードを表示し、呼び出し音を鳴らします。相手の声は聞こえません。

- F** + **SET/USB** 0 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET/SB]** キーを押す



- 2 セレクターを回して、表示をPSq OFFにする



- F** + **SET/USB** 3 **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回して、表示をOFFからonにする

- F** + **SET/USB** 0 4 もとの表示に戻すには、**[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET/SB]** キーを押す



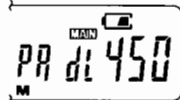
◆この機能を解除するには、手順3で表示をonからOFFにしてください。

ページングの送出時間を 遅らせるには

- レピータを使ってページングの信号を送るとき、信号の頭切れを防ぐために、信号が出るまでの時間を遅らせることができます。工場出荷時は、信号が出るまでの時間は450ミリ秒です。これを750ミリ秒にできます。

F +  **0** **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET/5B]** キーを押す

2 セレクターを回して、表示をPA dL 450にする



F +  **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回して、表示を450から750にする

F +  **0** **4** もとの表示に戻すには、**[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET/5B]** キーを押す



◆この機能を解除するには、手順3で表示を750から450にしてください。

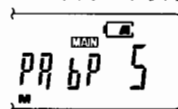
◆この動作が働くのは、レピータモードのときだけです。

ページング・ウェイクアップ待ち受け 中での呼び出し音の回数を変えるには

- ページングまたはウェイクアップで呼びだされた時の呼び出し音の回数を変えることができます。工場出荷時は、呼び出し音は5回に設定されています。これを1回にできます。

F +  **0** **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET/5B]** キーを押す

2 セレクターを回して、表示をPA bP 5にする



F +  **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回して、表示を5から1にする

F +  **0** **4** もとの表示に戻すには、**[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET/5B]** キーを押す



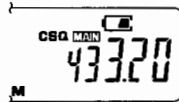
◆この機能を解除するには、手順3で表示を5から1にしてください。

コードスケルチを使うには



1 [FUNC] キーを押しながら、[4PAGE] キーを2回押す

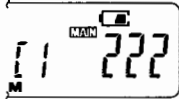
2 CSQが表示されることを確かめる



3 [FUNC] キーを押しながら、[5CODE] キーを押す



4 セレクターを回して、相手局のコードを呼び出す



5 相手の送信を待つ場合は、[FUNC] キーを押しながら、[5CODE] キーを押す



6 送信する場合は、PTTを押す



◆再度同じ相手と交信するときは、相手局のコードを設定する必要はありません。したがって、手順3、4は省略できます。

ウェイクアップとは

- 電源を切った状態に近い状態で待ち受けができます。
- コードを呼び出したい人の個別コードに合わせ、呼び出します。
- ウェイクアップのコードは、3桁または4桁のコードを使います。3桁のコードは、ページング・コードスケルチのコードを使います。4桁のコードは、ウェイクアップコードを設定します。したがって、ウェイクアップの自局コードと相手局コードを設定する必要があります。
- 4桁のコードを使うと、当社のハンディートランシーバーC181/C481のウェイクアップ機能がご利用いただけます。

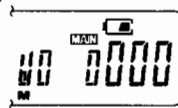
4桁	○○○○*△△△△	自局コード ○○○○	ウェイクアップ コード 0
		相手局コード △△△△	ウェイクアップ コード1,2,P
3桁	○○○*△△△	自局コード ○○○	ページング コード 0
		相手局コード △△△	ページング コード1~6,P

自分のウェイクアップコードを 設定するには

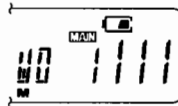
- ウェイクアップの4桁コードを使うために、自分のウェイクアップコードを設定します。

F +  **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/SEL]** キーを押す

 **2** セレクターを回し、表示をW0 0000にする
(自分のウェイクアップコードは、W0 に設定します。)



  **3** キーボードで自局コードを入力する



F +  **4** 表示をもとに戻すには、**[FUNC]** キーを押しながら
[0 SET/SEL] キーを押す

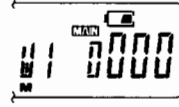
相手のウェイクアップコードを 設定するには

- 4桁コードを使って話したい相手呼び出す前に、相手のウェイクアップコードをメモリーする必要があります。

F +  **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/SEL]** キーを押す

 **2** セレクターを回し、表示を自分のウェイクアップコードW0 xxxxにする

F +  **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、
W1 0000またはW2 0000にする
(メモリーアドレスW1とW2は相手局用のものです)



  **4** キーボードで相手のコードを入力する



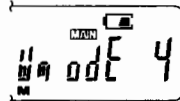
F +  **5** 表示をもとに戻すには、**[FUNC]** キーを押しながら
[0 SET/SEL] キーを押す

ウェイクアップコードの桁を 選択するには

- この操作で、ウェイクアップで使うコードの桁を3桁または4桁にするか選択します。

F +  **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/SB]** キーを押す

 **2** セレクターを回し、表示をWmodE 4にする



F +  **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回しモードを選択する

4桁のコードを使うときは、4にする
3桁のコードを使うときは、3にする

F +  **4** 表示を元に戻すには、**[FUNC]** キーを押しながら
[0 SET/SB] キーを押す



- ◆コードの桁数の設定は相手局に合わせてください。コードの桁数があっていると、メモリーされている自局コードで呼ばれても、動作しません。

ウェイクアップで 待ち受けするには

F +  **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/SB]** キーを押す

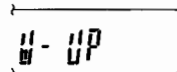


2 セレクターを回し、表示をWUP OFFにする

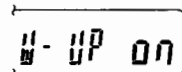


F +  **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、OFFをonまたはPonにする
on: 呼び出されたとき、相手局コードまたは待ち受けていたコードを表示し、呼び出し音が鳴る
Pon: 呼び出されたとき、自動的に電源が入る

4 電源を切り、以下の表示になることを確かめる



(onを選んだとき)



(Ponを選んだとき)



- ◆この機能を解除するには、電源を入れ、手順3で設定をOFFにしてください。
- ◆4桁コードを使って待ち受けていたとき、当社ハンディートランシーバのC481またはC181から呼び出されると、待ち受けていたコードが表示されます。
- ◆この機能は、メインバンドで動作します。手順4の表示は、メインバンド側に表示されます。

ウェイクアップで呼び出すには

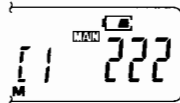
準備

- 1 ウェイクアップコードの桁を選択する (P.59)

- 2 相手のコードを選択する

- 3 桁のコードを選択したときは、
- F** +  **a** **[FUNC]** キーを押しながら、**[5 CODE]** キーを押す

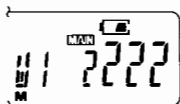
-  **b** セレクターを回し、相手のコードを選択する



- 4 桁のコードを選択したときは、
- F** +  **a** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/SEL]** キーを押す

-  **b** セレクターを回し、表示をw0 xxxxにする

- F** +  **c** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、相手のコードを選択する

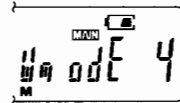


呼び出すには

- F** +  **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/SEL]** キーを押す



- 2** セレクターを回し、表示をWmodE 3または4にする



- 3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、相手局のモード(3桁または4桁)に合わせる



- 4** **[PTT]** を押す

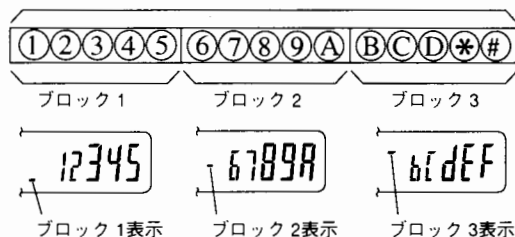
- 5** もとの表示に戻り、約3秒後にコードが送信されることを確かめる

DTMFを使うには

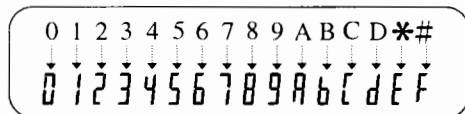
- 本機では、DTMF信号の送出方法が2通りあります。
第1の方法は、PTTを押しながらキーボードを押す方法です。
第2の方法は、DTMFコードをメモリーし、そのコードを送出する方法です。

DTMFコードとメモリーについて

- ・DTMFコードは、DTMF専用メモリーに書き込みます。
- ・DTMF専用メモリーは、5個あります。これは、UHF帯とVHF帯で共通です。
- ・15桁までのDTMF信号をメモリーに書き込みます。
- ・15桁のコードは、3つのブロックに分けて表示されます。



- ・書き込めるコードは、0～9、A～D、*、#です。コードは、次のようにディスプレイに表示されます。



PTTを押しながら、 DTMF信号を送出するには



1 PTT を押す

2 手順1のまま、0～9、*、#のキーを押す



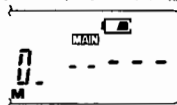
DTMF信号は、キーを押している間だけ送出されます。

DTMFコードを書き込むには

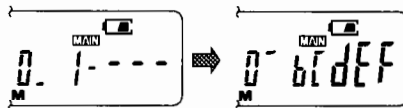
- DTMF信号をメモリーすることで、より簡単に操作が行えます。

F + **DTMF** 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[6 DTMF.M]** キーを押す

2 セクターを回し、メモリーする番号にする
(メモリーは、0～4に設定できます。)



3 キーボードを使い、1桁目から15桁目までコードを入力する
(15桁目を入力するとコードが設定されます。)



0～9、*、#は、各キーを押す
A～Dは、**[FUNC]** キーを押しながら、1～4の各キーを押す

F + **DTMF** 4 もとに戻るには、**[FUNC]** キーを押しながら、**[6 DTMF.M]** キーを押す



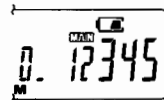
◆入力するコードが15桁より短いときは、**[FUNC]** キーを押しながら**[ENT V/M]** キーを押すと、それまでのコードが入力されます。

DTMFメモリーを消去するには

F + **DTMF** 1 **[FUNC]** キーを押しながら、**[6 DTMF.M]** キーを押す

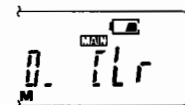


2 セクターを回し、消したい番号にする
(メモリーは、0～4に設定されています。)



F + **ENT V/M** 3 **[FUNC]** キーを押しながら、**[ENT V/M]** キーを押す

4 CLRが表示されることを確かめる



F + **ENT V/M** 5 **[FUNC]** キーを押しながら、**[ENT V/M]** キーを押す



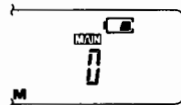
◆手順5を行うと、DTMFメモリーは消去されます。消去を中止するときは、手順5で**[FUNC]** キーを押しながら、**[6 DTMF.M]** キーを押してください。

メモリーしたDTMFコードを 送出するには

PTT ON

ENT
V/M

- 1 [PTT] スイッチを押し、送信する
- 2 送信したまま、[ENT/V/M] キーを押す
- 3 周波数表示が消えることを確かめる
- 4 3の状態のまま、DTMFコードを書き込んでい
る番号をキーボードから入力する
- 5 DTMFコードが送信されることを確かめる

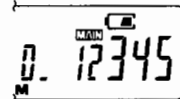


- ◆手順4で、PTTを押し続けると、キーボードから違うメモリーアドレスを入力できます。この操作により、15桁より長いDTMFコードを送出することができます。
- ◆手順4で、書き込まれていない番号を入力すると、表示は変わりますが、なにも送出されません。
- ◆手順5の送信されたDTMFコード後に続けて、キーボードに対応したDTMFコードは次の手順で送出できます。[ENT/V/M] キーを押し、周波数表示に戻し、0~9、*、#キーを押す。

メモリーしたDTMFコードを 確認するには



- 1 [FUNC] キーを押しながら、[6 DTMF.M] キーを押す
- 2 セレクターを回し、メモリーしている番号にする
(メモリーは、0~4に設定されています。)



- 3 [FUNC] キーを押しながら、セレクターを回す



- 4 もとに戻るには、[FUNC] キーを押しながら、
[6 DTMF.M] キーを押す



- ◆メモリーしている内容は、5桁ずつ表示されます。

DTMFコードの送出時間の 間隔を変更する

- 通常、DTMF信号は50ミリ秒の間隔で送出されます。この間隔を100ミリ秒に変えることができます。

F + **SET/SEL** **0** **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/SEL]** キーを押す

2 セクターを回し、表示をdtSP norにする



F + **SET/SEL** **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セクターを回し、表示をnorからLoにする
(100ミリ秒に設定されました。)

F + **SET/SEL** **0** **4** もとの表示に戻るには、**[FUNC]** キーを押しながら、**[0 SET/SEL]** キーを押す

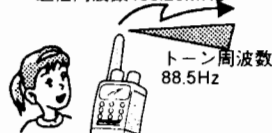


- ◆この機能を解除するには、手順3で表示をLoからnorにしてください。
- ◆相手に届く電波が弱いときに、設定をLoにすると、相手が信号をより正しく受れるようになります。
- ◆この設定は、DTMFコード、ページング、コードスケルチ、ウェイクアップの各送出と共通です。

トーンスケルチ(CTN560)を使って

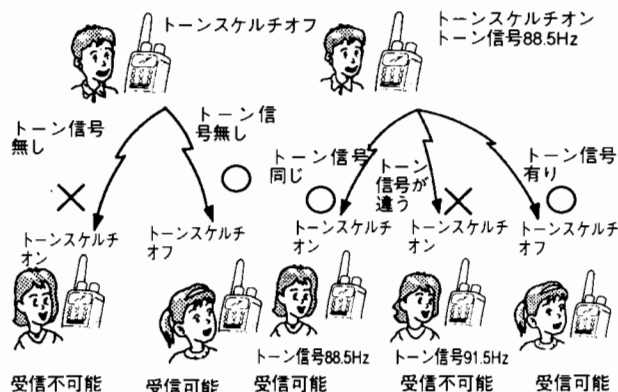
- 別売りのトーンスケルチユニット(CTN560)を本機に取り付けることで、送信したときにトーン信号が同時に送ります。これにより、トーンエンコーダーとトーンスケルチが使えます。

送信周波数433.20MHz



- トーンエンコーダーとは、送信するときにトーン信号が出ます。

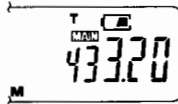
- トーンスケルチとは、送信するときにトーン信号が出ます。また、受信するときに、自分と相手のトーン信号が同じでないと音声がかたかたで聞こえません。



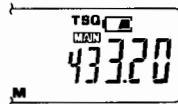
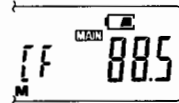
トーンエンコーダー・

トーンスケルチを使うには

トーンエンコーダーを使うには

F +  **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[7TSQ]** キーを押す**2** Tが表示されることを確かめる**F** +  **3** もとの表示に戻るには、**[FUNC]** キーを押しながら、**[7TSQ]** キーを2回押す

トーンスケルチを使うには

1 Tが表示されていることを確かめる
(Tが表示されていないときは、「トーンエンコーダーを使うには」の手順にしたがってください。)**F** +  **2** **[FUNC]** キーを押しながら、**[7TSQ]** キーを押す**3** TSQが表示されることを確認する**F** +  **4** もとの表示に戻るには、**[FUNC]** キーを押しながら、**[7TSQ]** キーを押す◆ トーンスケルチユニットが実装されていないと、**[FUNC]** キーを押しながら、**[7TSQ]** キーを押しても、ブー音がして受け付けません。トーン信号の周波数を変えるには **F** +  **1** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET/5B]** キーを押す**2** セレクターを回し、表示をCF88.5にする**F** +  **3** **[FUNC]** キーを押しながら、セレクターを回し、変更するトーン信号の周波数にする**F** +  **4** **[FUNC]** キーを押しながら、**[0SET/5B]** キーを押す

トーン信号の周波数 (Hz)

67.0	69.3	71.9	74.4	77.0	79.7
82.5	85.4	88.5	91.5	94.8	97.4
100.0	103.5	107.2	110.9	114.8	118.8
123.0	127.3	131.8	136.5	141.3	146.2
151.4	156.7	162.2	167.9	173.8	179.9
186.2	192.8	203.5	210.7	218.1	225.7
233.6	241.8	250.3	計39種類		

工場出荷時（初期値）は88.5Hzです。

グループで使うには



ご参考に

故障とお考えになる前に	68
セットモード一覧	70
オプション(別売り品)の紹介	71
アフターサービスについて	71
定格	72
運用にあたって	73
開局申請の書きかた	74
送信機系統図	75
さくいん	76

故障とお考えになる前に

●故障かな？とお考えになる前に該当する項目があったら確認してみてください。

電源が入らない

- 電池が消耗している
- メモリーユニットが正しく差し込まれていない

電源を入れるたびに初期状態になる

- メモリーユニットが正しく差し込まれていない

片方のバンドの表示が消えたまま

- バンドオフになっている

どのキーを押してもブー音がする

- 電池が消耗している (■が点滅している)

周波数が変わらない

- キーロックになっている (■が表示されている)

受信しない

- アンテナが外れている、緩んでいる

強い信号しか受信しない

- アンテナが外れている、緩んでいる
- SQLツマミが時計方向に回し切っている

スケルチが閉じない (ザーという音が出る)

- SQLツマミが反時計方向に回し切っている
- スケルチオフになっている

受信音がしない

- VOLツマミが反時計方向に回し切っている
- トーンスケルチ、コードスケルチまたはページングモードになっている
- 外部スピーカーの切り替えが設定されている

送信しない

- PTTロックになっている
- 電池が消耗している (■が点滅している)
- レピータモードで送信周波数がアマチュアバンドから外れている

送信出力が少ない

- アンテナが外れている、緩んでいる
- 電池が消耗している (■が点滅している)
- 1.2GHz帯の送信出力は、EL設定のみ

メモリーに書き込めない

- メモリーユニットが正しく差し込まれていない
- メモリープロテクトになっている
- 電池が消耗している (■が点滅している)

スキャンしない

- SQLツマミが反時計方向に回し切っている
- スケルチオフになっている

メモリスキャンしない

- メモリーが全て空メモリーになっている(または、ひとつしかメモリーされていない)
- メモリスキャンメモリーのとき、メモリスキャンメモリーの登録しているメモリーがない(または、ひとつしか登録されていない)

VFOからデュアルワッチできない

- メモリーアドレスM00が空メモリーになっている

レピータ局をアクセスしない

- レピータ局と離れすぎている
- トーン周波数が異なっている
- オフセット周波数が異なっている
- シフト方向が異なっている、設定されていない

ページング、コードスケルチの動作をしない

- 相手局と離れすぎている
- 相手局とコードが一致していない
- グループコードになっていない、または合っていない

ウェイクアップの動作をしない

- 相手局と離れすぎている
- 相手局とモード(3桁または4桁)が一致していない
- 相手局とコードが一致していない

トーンスケルチの動作をしない

- トーンスケルチユニット (CTN560 : 別売り品) が装着されていない
- 相手局と離れすぎている
- 相手局とトーン周波数が一致していない

セットモード一覧

C560 SET MODE 呼び出し、終了  + 		be EP on	キー操作時のピープ音のON/OFF選択 (P48)
※: MYキー登録不可 選択  + 		du RL OFF	デュアルワッチ機能ON/OFF選択 (P38)
初期表示	機能	du SP nor	デュアルワッチを行う時間の選択 (P40)
St 20.00	※ 周波数ステップの選択 (P18)	Pr o OFF	メモリープロテクト機能ON/OFF選択 (P29)
OF 5.00	※ レピータ運用のオフセット周波数選択 (P44)	Pl OFF	PTTロック機能ON/OFF選択 (P46)
ff 88.5	※ トーン周波数の選択 (P65) (別売品のCTN560実装時)	to t OFF	※ 送信自動停止機能時間の選択 (P48) (タイムアウトタイマー)
it 88.5	※ 内蔵レピータ運用トーンの周波数の選択 (P44)	RP o OFF	自動的に電源を切る機能ON/OFF選択 (P47) (オートパワーオフ)
SR OFF	※ バッテリーセーブ時間の選択 (P47)	SP 1 1	※ 外部/内部スピーカの切り替え選択 (P50)
in P1 OFF	キーボードから1kHzの桁入力可能ON/OFF (P46)	au tE OFF	サブバンドの受信音ON/OFF選択 (P49)
F- St 0.1	周波数ステップの100kHz/1MHzの切り替え (P18)	ao n, OFF	スケルチが開くときのポップス低減を選択 (P49)
Fl tH OFF	キーロック時のセレクト使用可能ON/OFF (P21)	u a odE 4	ウェイクアップコードの桁を選択 (P59)
dt SP nor	DTMFコード送出時間の間隔を変更 (P64)	uu P OFF	ウェイクアップでの待ち受け選択 (P59)
PS q OFF	ポケベルのようにページングを使う (P55)	uo 0000	※ ウェイクアップコードの設定 (P58)
PR dt 450	ページングの送出時間を遅らせる (P56)	Rt rP on	オートレピータモードON/OFF選択 (P42)
PR bP 5	ページング・ウェイクアップでの待ち受け中の呼び出し音回数の選択 (P56)		

この表を4つ折りにすると、ほぼテレホンカードと同じサイズになります。コピー等をして、切り取ってお使い下さい。

オプション (別売り品) の紹介

CHP111	ヘッドセット (PTT付き)
CHP150	ヘッドセット (VOX付き)
CMP111	マイク&スピーカー
CMP113	タイピン型マイク&スピーカー
CMP115	小型マイク&スピーカー
CNB171	標準型リチャージャブルバッテリーパック
CNB172	ハイパワーリチャージャブルバッテリーパック
CNB173	ロングライフリチャージャブルバッテリーパック
CBT171	バッテリーケース (単3形×6本用)
CSA181	デスクトップチャージャー
CWC150	ウォールチャージャー (CNB171/CNB173用)
CWC151	ウォールチャージャー (CNB172用)
CMC150	モバイルチャージャー (CNB171/CNB173用)
CTN560	トーンスケルユニット
CMU160	メモリーユニット (40ch用)
CMU161	メモリーユニット (200ch用)
CAW150	モバイル電源ケーブル
CAW151	基地局用電源ケーブル
CAW152	モバイル電源ケーブル (ノイズフィルター付き)
CLC560	ソフトケース (CBT171/CNB171装着時)
CLC561	ソフトケース (CNB172/CNB173装着時)
CLC562	ハードケース
CLC555	ハンディポシェット
CAX03	ボトムカバー
CMB112	モバイルブラケット
CMB600	ヘルメット用クリップ (CHP150用)

アフターサービスについて

保証について

- この製品の保証期間は1年間です。
- この製品には、保証書がついています。
- 保証書は、記入事項をよくご確認のうえ大切に保管してください。
- 保証期間内でも有料修理となることがあります。保証書をよくご確認ください。

保守サービスについて

- 保証期間経過後においても、修理が可能なものは、お客様のご要望により有料修理いたします。なお、修理内容によっては、修理費が高額になる場合もありますのでご承知願います。

故障の場合は

- 「故障とお考えになる前に」をよくお読みのうえ、もう一度故障の状況をお調べください。それでも、うまく動かないときは、お買い上げになった販売店または当社営業所、当社サービスセンターにご相談ください。

定格

一般仕様

周波数範囲	144.000~145.995MHz 430.000~439.995MHz 1260.000~1299.990MHz
電波型式	F2,F3
マイクロホン入力インピーダンス	600Ω
スピーカーインピーダンス	8Ω
動作電圧範囲	DC4.5V~15.0V (バッテリー端子使用時) DC5.0V~16.0V (外部電源端子使用時)
定格電圧	DC7.2V
消費電流(13.8Vで送信)	[Hi 5W]約1100mA (144MHz帯) 約1300mA (430MHz帯) [Mid 2.5W]約850mA (144MHz帯) 約950mA (430MHz帯)
消費電流(7.2Vで送信)	[Hi 2.6W]約880mA (144MHz帯) 約980mA (430MHz帯) [Mid 2.5W]約850mA (144MHz帯) 約950mA (430MHz帯)
消費電流(13.8/7.2Vで送信)	[Low 0.35W]約480mA (144MHz帯/430MHz帯)
消費電流(13.8/7.2Vで送信)	[EL 50mW]約100mA (144MHz帯/430MHz帯)
消費電流(13.8/7.2Vで送信)	[EL 35mW]約120mA (1200MHz帯)
消費電流(待ち受け時)	約65mA(ツイン時) 約34mA(144MHz帯モノ時) 約45mA(430MHz帯モノ時) 約49mA(1200MHz帯モノ時)
消費電流(セーブ0.75秒時)	約25mA(ツイン時)
本体寸法(電池含む、突起物は除く)	47.0(幅)×134.5(高さ)×34.0(奥行き)mm
本体重量(電池含む、アンテナ含む)	約360g

受信部

受信方式	ダブルスーパーヘテロダイナ
中間周波数	(表示左側のバンド) 1st IF 21.8MHz 2nd IF 455kHz (表示右側のバンド) 1st IF 23.05MHz 2nd IF 450kHz
受信感度	(表示左側のバンド) 144MHz帯 -10dBμ (-16dBμ JAI A測定法) 430MHz帯 -9dBμ (-15dBμ JAI A測定法) (表示右側のバンド) 144MHz帯 -10dBμ (-16dBμ JAI A測定法) 430MHz帯 -10dBμ (-16dBμ JAI A測定法) 1200MHz帯 -5dBμ (-11dBμ JAI A測定法)
入力0.5mV時のS/N	30dB以上
スケルチ開放感度	-14dBμ (-20dBμ JAI A測定法)
オーディオ出力	250mW(8W,10%歪時)

送信部

送信出力(Hi)	
CBT171使用時	約2.5W(144MHz帯/430MHz帯)
CNB171/173使用時	約2.6W(144MHz帯/430MHz帯)
CNB172使用時	約5.0W(144MHz帯/430MHz帯)
送信出力(Mid)	約2.5W(144MHz帯/430MHz帯)
送信出力(Low)	約0.35W(144MHz帯/430MHz帯)
送信出力(EL)	約50mW(144MHz帯) 約50mW(430MHz帯) 約35mW(1200MHz帯)
変調方式	リアクタンス変調
最大周波数偏移	±5kHz
スプリアス比	60dB以上
内蔵マイク	エレクトレットコンデンサーマイク

本機の外観および定格は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

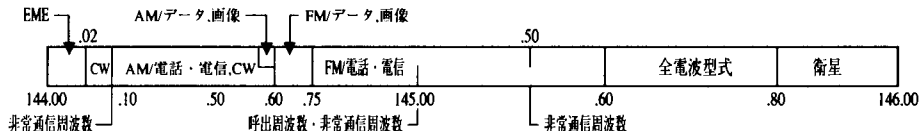
運用にあたって

- アマチュアバンドの使用区分は、混信の除去等を目的に制定されています。都会やその周辺の地域では、144MHzバンドや430MHzバンドはFM電波を使用する局が多く、時間によっては「FM」(電話)の区分内では、周波数が不足して、出る時間のないくらい混雑しています。交信はできるだけ短く、お互いにゆずり合いの精神で運用してください。

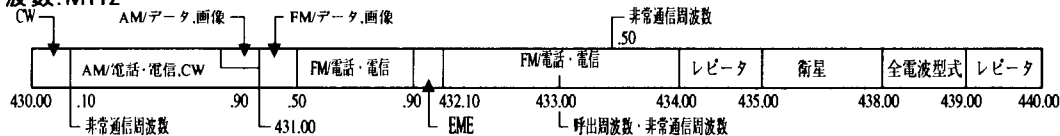
使用区別図

- (1) 1907.5kHzから10.25GHzまでのアマチュアバンドにおけるアマチュア業務に使用する電波の型式および周波数は、使用区別図のとおりです。なお、144MHz帯、430MHz帯、1200MHz帯および2400MHz帯においては、JARLのアマチュア局によりJARLのアマチュア業務の中継用無線局を遠隔操作する場合には、A1、A2、F2およびF3電波により全周波数を使用することができます。
- (2) 使用区別図中の「呼出周波数・非常通信周波数」および「呼出周波数」はFM/電波・電信の電波による連絡設定の通信を行う場合に使用することができます。
- (3) 使用区別図中の「非常通信周波数」は、非常通信が実施されていない場合は、その他の通信に使用することができます。

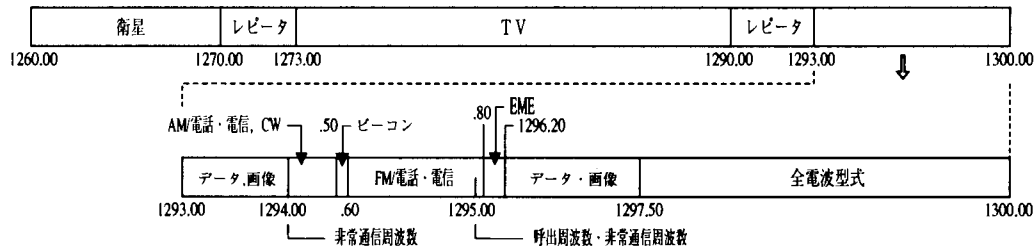
144MHz帯 周波数:MHz



430MHz帯 周波数:MHz



1200MHz帯 周波数:MHz



開局申請の書きかた

本機は、JARLの技術基準適合機です。「アマチュア無線局の無線設備の技適証明書発行・保証認定」および「工事設計書」に技術基準適合証明番号を記載することで、送信機系統図と工事設計書の発射可能な電波の型式、周波数の範囲以外の項目の記入を省略できます。

		C560	
①	技術基準適合証明番号		
	発射可能な電波の型式 周波数の範囲	F2	144MHz帯 430MHz帯 1200MHz帯
②	変調の方式	リアクタンス変調	
	定格出力	5W (144MHz帯/430MHz帯) 35mW(1200MHz帯)	
	名称・個数	2SC4094×1(1200MHz帯) M67799MA×1(430MHz帯) PF0310A×1(144MHz帯) 2SC3356×1(430MHz帯) 2SC3356×1(144MHz帯)	
	電圧	13.8V	(144MHz帯)
③	送信空中線の型式	5.0V	(430MHz帯)
		13.8V	(430MHz帯)
		4.6V	(1200MHz帯)
④	送信空中線の型式		
	その他工事設計	電波法第3章に規定する条件に合致している	

①技術基準適合証明書は、本機の背面に貼られている証明ラベルの番号です。

技術基準適合証明でアマチュア無線局を開局する場合は、「技適証明発行願」と「工事設計書」には、この番号を記入してください。

発射可能な電波の型式、周波数の範囲は、左の表を参考に記入してください。

②保証認定でアマチュア無線局を申請する場合は、「工事設計書」にこれらの項目を記入してください。

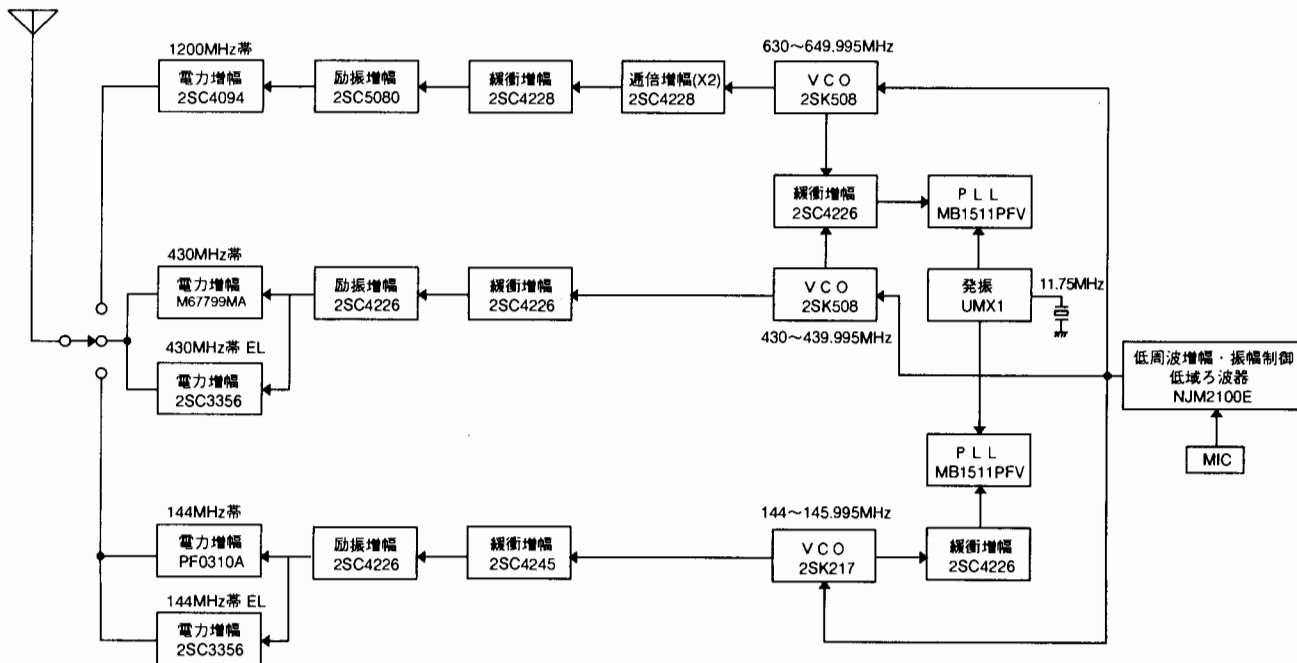
保証認定が必要な場合は、次の通りです。

1. JARL登録送信機およびその改造機
2. 技適証明送信機を改造した改造送信機
3. 技適証明送信機に付属装置(TNC装置、FAX装置、RTTY装置など)、トランスバータまたはブースター等を付加した送信機
4. 自作した送信機

③使用する送信空中線(アンテナ)の型式を記入してください。単一型、八木型が一般的です。なお、本機付属のアンテナは単一型です。

送信機系統図

144.0~145.995MHz
 430.0~439.995MHz
 1260.0~1299.995MHz



さくいん

1MHzスキャン	33	キーボード	14	ハイパワー	22
B	32	キーロック	21	バッテリーセーブ	47
CSQ	57	グループコード	54	バンドオフ	23
DC IN	16	コードスケルチ	52	ビジースキャン	32
DTMF	61	コールシフト	20	ブロック	36
EL	22	コール周波数	19	ブロックメモリスキャン	36
ELパワー	22	個別コード	52	ページング	52
F	表紙裏	サブバンド	9	ポーズスキャン	32
L	22	受信	10	ホールドスキャン	32
M	22	周波数ステップ	18	マイキー	24
PAG	54	周波数帯	9	ミドルパワー	22
PTT	11	シンプレックス運用	42	メインバンド	9
T	65	送信	11	メモリー	26
TSQ	65	送信出力	22	メモリーアドレス	26
VFO状態	10	スキャン	32	メモリーシフト	28
VFOリセット	12	スケルチ	9	メモリスキャン	34
空メモリー	27	セットモード	表紙裏	メモリープロテクト	29
アンテナ	5	セクター	10	メモリーモード	26
ウェイクアップ	57	タイムアウトタイマー	48	メモリーユニット	30
オートパワーオフ	47	ディスプレイ	16	ランプ	24
オートレピータ	42	デュアルワッチ	38	リセット	12
オールスキャン	33	電源	8	レピータ	42
オールリセット	12	電池	6	レピータモード	42
オフセット周波数	42	トーンエンコーダー	64	ローパワー	22
音量	8	トーンスケルチ	64		

日本マランツ株式会社

本 社 〒228 神奈川県相模原市相模大野7丁目35番1号
営業本部 〒150 東京都渋谷区恵比寿南1丁目11番9号

お問い合わせは、
最寄りの日本マランツ株式会社、各営業所、サービスセンター
で承っております。付属の全国営業所一覧をご覧ください。